



Syllabus

平成17年度

薬学部授業計画

< 共通教養科目 >



< 外国語科目 >

近畿大学

目 次

共通教養科目	1
生涯スポーツ	37
英 語	49
初修外国語（ドイツ語）	105
初修外国語（フランス語）	115
初修外国語（中国語）	125

共通教養科目

科目名： 人権論1				
英文名： Human Rights 1				
担当者： <small>クマモト</small> <small>リサ</small> 熊本 理抄				
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期・後期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

現代社会におけるさまざまな差別の実態と、その歴史的背景や政治的経済的要因、差別撤廃のためのとりくみなどを学びながら、差別を生み出し支える社会構造や社会意識について考えていきます。

■学習・教育目標および到達目標

さまざまな差別の実態と要因を知り、差別問題解決への道をさぐる。

■教科書

特に指定しません。

■参考文献

授業中に適時紹介します。

■試験方法

レポート

■成績評価基準

授業ごと提出のコミュニケーションカード (70%)
レポート (30%)

■授業評価実施方法

各授業の際にコミュニケーションカードを配布します。その授業で学んだこと、気づいたこと、自分とのかかわり、授業の疑問点、質問などを書いて提出していただきます。内容に関しては、一部を授業で紹介したり、質問に答えたりしていきたいと思えます。

■研究室・E-mailアドレス

研究室 (本館5階・507号室)
E-mailアドレス (kumamoto@msa.kindai.ac.jp)

■オフィスアワー

随時、受け付けます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1回 オリエンテーション：授業計画について
- 第2回 生命と人権 (1) 出生前診断
- 第3回 生命と人権 (2) 死刑
- 第4回 ハンセン病と人権
- 第5回 戸籍と部落差別
- 第6回 国籍と在日韓国・朝鮮人差別
- 第7回 沖縄の問題 (1)
- 第8回 沖縄の問題 (2)
- 第9回 アイヌ民族の権利
- 第10回 働く (1) 女性
- 第11回 働く (2) 若者
- 第12回 働く (3) 外国人労働者
- 第13回 「わたし」を知る (1)

第14回 「わたし」を知る (2)

第15回 予備

科目名： 人権論2				
英文名： Human Rights 2				
担当者： <small>クマモト リサ</small> 熊本 理抄				
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

世界で何が起きているのか。
 自分たちが生きているこの社会と世界はどんなふうにつながっているのか。
 自分の日々の生活と世界で日々起きていることが、どのように関連しているのか。
 人権を獲得するために、人権基準を発展させるために、人類はどのような歴史を歩んできたのか。
 そうしたことを学びながら、どうしたらさまざまな問題を解決していくことができるのかを考えていきたいと思います。
 なお、「人権論2」を受講するには「人権論1」を履修しなければなりません。

■学習・教育目標および到達目標

グローバルな視野から人権を考える基礎を学ぶ。

■教科書

特に指定しません。

■参考文献

授業中に適時指示します。

■試験方法

レポート

■成績評価基準

授業ごと提出のコミュニケーションカード (70%)
 レポート (30%)

■授業評価実施方法

各授業の際にコミュニケーションカードを配布します。その授業で学んだこと、気づいたこと、自分とのかかわり、授業の疑問点、質問などを書いて提出していただきます。内容に関しては、一部を授業で紹介したり、質問に答えたりしていきたいと思います。

■研究室・E-mailアドレス

研究室 (本館5階・507号室)
 E-mailアドレス (kumamoto@msa.kindai.ac.jp)

■オフィスアワー

随時、受け付けます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション：授業計画について

第2回 人権思想の歴史的展開

第3回 人権の国際的保障 (1) 国際連合の誕生

第4回 人権の国際的保障 (2) 世界人権宣言

第5回 人権の国際的保障 (3) 国際人権規約

第6回 先住民族の運動 (1)

第7回 先住民族の運動 (2)

第8回 環境問題と先住民族

第9回 アフリカ系アメリカ人差別

第10回 公民権運動

第11回 インドのカースト制度

第12回 ダリット運動

第13回 世界の子どもたち

第14回 予備

第15回 予備

科目名： 経済学				
英文名： Economics				
担当者： <small>ニシカワ ヒロノブ</small> 西川 弘展				
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

商品の生産・分配・消費といった活動の側面から人間社会のあり方や動きをとらえようとするのが「経済学」です。この授業では、そうした「経済学」の基礎的な知識をじっくりと学びます。ひとつは、経済全体の動きを大雑把にとらえる「マクロ経済学」。そしてもうひとつは諸個人の合理的な行動を前提に組み立てられる「ミクロ経済学」。これら経済学の2つの分野の典型的な理論を中心に解説しそれらの現実的な意味づけについて考えます。

授業では、数学にとらわれないように、出来るだけ直感に訴えて「経済学」特有の考え方の習得に努めるつもりです。ただし、グラフや記号の活用は避けられませんし、簡単な代数計算は行わなくてはなりません。このことを十分に承知した上で、受講して下さい。数学アレルギーの人への配慮もしますが、ちょっとした記号を見ただけで極端に拒絶反応を感じる人は事前に苦手意識を克服しておく必要があるでしょう。コツは記号の意味を追いかけることです。記号は言葉を代理したものに過ぎません。

当然の事ですが、授業中は静粛に。皆が受講マナーを守って皆にとって快適な教室にしましょう。

■学習・教育目標および到達目標

限られた時間ですが、社会人の教養としても通用するレベルの「経済学」の習得を目標としたいと考えています。また、日常の経済・社会現象や人々の活動を、常識にとらわれることなく、経済学的に把握・評価できるようになれば、なおよいと考えています。

■教科書

特定の教科書は使用しません。

授業では、口述・板書にあわせて適宜プリントを配布します。

■参考文献

比較的新しく、読みやすい書物をあげておきます。図書館で借り出すなどして、自習に活用してください。

- (1) 市岡修『経済学：エコノミックな見方・考え方』有斐閣、2000年
- (2) 日本経済新聞社『やさしい経済学』日経ビジネス人文庫、2001年
- (3) 伊藤元重『入門経済学第2版』日本評論社、2001年
- (4) 井原哲夫他『経済学入門：現実の経済を理解するために』日本評論社、2003年
- (5) 林敏彦『ハート&マインド経済学入門』有斐閣、1996年
- (6) 塩沢修平『基礎コース 経済学』新世社、2003年

■試験方法

定期試験を行います。

■成績評価基準

定期試験の結果だけでなく授業時の平常点（出席等）も考慮に入れます。

■オフィスアワー

毎回の授業時間終了後

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 経済学入門

- ・経済学を学ぶ意義
- ・現代経済学の構成
- ・代表的経済主体など経済学に特有な思考法
- ・経済循環図
- ・成績評価の方法

第2回 需要と供給の分析ツール

- ・需要曲線（需要関数）の意味
- ・供給曲線（供給関数）の意味
- ・需要・供給分析の応用例

第3回 需要関数の背景（1）

- ・経済循環図と消費者（家計）の典型的な活動
- ・効用関数と無差別曲線
- ・消費者（家計）行動の効用最大化仮説

第4回 需要関数の背景 (2)

- ・消費者 (家計) の効用最大化モデル：予算制約線と無差別曲線
- ・マーシャルの需要法則の導出
- ・上級財・下級財など財の分類

第5回 供給関数の背景 (1)

- ・経済循環図と生産者 (企業) の典型的な活動
- ・生産関数と等量曲線
- ・生産者 (企業) 行動の利潤最大化仮説

第6回 供給関数の背景 (2)

- ・生産者 (企業) の利潤最大化モデル
 - ： (1) 総費用関数と総収入関数
 - (2) 等量曲線と総費用曲線
- ・個別生産者の供給関数 (供給曲線) の導出
- ・生産性の変化と供給関数のシフト

第7回 部分均衡市場分析 (1)

- ・個別需要関数から市場需要関数への集計的手続き
- ・個別供給関数から市場供給関数への集計的手続き
- ・均衡の安定性 (静学的調整)

第8回 部分均衡市場分析 (2)

- ・均衡の安定性 (動学的調整)
- ・消費者余剰という指標
- ・生産者余剰という指標
- ・課税の効果
- ・公害など外部不経済

第9回 GDPとその循環

- ・GDPの概念
- ・GDP概念の系列
- ・GDPの三面
- ・産業連関表

第10回 GDPの決定理論 (1)

- ・単純化された経済循環図
- ・消費関数 (絶対所得仮説)
- ・投資関数 (資本の限界効率と利子率の均等)
- ・45度線モデル

第11回 GDPの決定理論 (2)

- ・乗数効果
- ・貯蓄と投資の均等
- ・貯蓄のパラドックス
- ・IS曲線の導出

第12回 貨幣市場の理論 (1)

- ・貨幣供給 (マネー・サプライ)
- ・信用創造過程と貨幣乗数
- ・貨幣数量説

第13回 貨幣市場の理論 (2)

- ・貨幣需要のさまざまな動機
- ・流動性選好説
- ・貨幣市場の均衡 (貨幣の需給一致) 条件
- ・LM曲線の導出

第14回 IS・LM分析と財政・金融政策

- ・財市場と貨幣市場の同時均衡
- ・財政政策とIS・LM分析
- ・金融政策とIS・LM分析

年野心 2014

2014年度 第15回

第15回 試験

第15回 試験

授業内容が正確に理解できているかどうか試験します。

経済学総論

第1問 以下の問いに答えよ。ただし、必要に応じて、適切な数式を用いて説明せよ。ただし、数式を用いないで説明する場合は、その理由を簡潔に述べよ。

財市場の同時均衡

第2問 以下の問いに答えよ。ただし、必要に応じて、適切な数式を用いて説明せよ。ただし、数式を用いないで説明する場合は、その理由を簡潔に述べよ。

貨幣市場

第3問 以下の問いに答えよ。ただし、必要に応じて、適切な数式を用いて説明せよ。ただし、数式を用いないで説明する場合は、その理由を簡潔に述べよ。

精文書読解

第4問 以下の問いに答えよ。ただし、必要に応じて、適切な数式を用いて説明せよ。ただし、数式を用いないで説明する場合は、その理由を簡潔に述べよ。

目録表読解

第5問

古文読解

第6問

基礎面判読読解

第7問

IS-LMモデル・IS-LMモデル

第8問

第9問

IS-LMモデル

第10問

財市場の同時均衡

第11問

第12問

第13問

第14問

第15問

第16問

第17問

第18問

第19問

第20問

第21問

第22問

科目名：心理学				
英文名：Psychology				
担当者： <small>キシモト ヨウイチ</small> 岸本 陽一				
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

心理学あるいは人間心理のいろいろな現象に関する興味や関心は非常に高い。しかしながら、その関心のありか、理解の仕方は、必ずしも科学としての心理学の目指しているものとは一致していない。本講義では、人間心理に関する現象の科学的研究方法や実証的成果に目を向けることで、人間の科学的理解を深める。

■学習・教育目標および到達目標

人間や動物の行動を、個人の経験に基づいて主観的あるいは独断的に説明・理解するのではなく、客観的、科学的な根拠に基づいて理解できるようになること。

■教科書

今田寛・宮田洋・賀集寛（編著）2003 心理学の基礎、培風館

■参考文献

詫間武俊（編）基礎心理学講座全5巻、八千代出版
 今田寛 現代心理学シリーズ5 学習の心理学、培風館
 A.ミアース、池見酉次郎・鶴見孝子訳自律訓練法、創元社
 詫間武俊（編）性格心理学ハンドブック、福村出版
 フリードマン/ ローゼンマン、河野友信（監）タイプA—性格と心臓病—、創元社

■関連科目

心理学概論

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験と小テストの成績に基づく

■研究室・E-mailアドレス

文芸学部棟 5階 506室
 kishimoto@msa.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

水曜日4限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1回 心理学の方法・対象・諸領域
- 第2回 学習：生得的な行動と学習された行動
- 第3回 学習：古典的条件づけ
- 第4回 学習：道具的条件づけ
- 第5回 学習：観察学習
- 第6回 学習：学習理論の応用
- 第7回 動機づけ：動機づけのメカニズム
- 第8回 動機づけ：生得的な動機
- 第9回 動機づけ：獲得された動機
- 第10回 動機づけ：動機が阻止されたとき1
- 第11回 動機づけ：動機が阻止されたとき2
- 第12回 パーソナリティの記述1

科目名：倫理学				
英文名：Ethics				
担当者： <small>シロウズ シロウ</small> 白水 士郎				
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

安楽死・尊厳死／脳死・臓器移植／出生前診断と優生思想、といった「生命倫理学」の様々なテーマに即して、現代社会における倫理という問題を考える。併せて、生と死をめぐる科学・技術・医療の最新動向について理解を深める。映像教材を多用する。

■教科書

特に指定しない。

■参考文献

今井道夫「生命倫理学入門」産業図書、ピーター・シンガー「生と死の倫理」昭和堂、他適宜指示する。

■成績評価基準

期末試験と数回の小レポート

■研究室・E-mailアドレス

文芸学部棟6F・shirouzu@nyc.odn.ne.jp

■オフィスアワー

木曜5限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1回 生命倫理学とは何か：テーマとアプローチの紹介
- 第2回 生命の尊厳とは何か（1）：安楽死受容の現状と問題点
- 第3回 生命の尊厳とは何か（2）：QOLとSOL
- 第4回 生命の尊厳とは何か（3）：自己決定権の落とし穴
- 第5回 生命の尊厳とは何か（4）：終末期医療とケア
- 第6回 脳死と臓器移植（1）：脳死判定の諸問題
- 第7回 脳死と臓器移植（2）：臓器移植の諸問題
- 第8回 脳死と臓器移植（3）：和田心移植「事件」の教訓
- 第9回 脳死と臓器移植（4）：臓器交換社会の是非
- 第10回 遺伝子診断：現状と問題点
- 第11回 出生前診断と優生思想（1）：歴史と現状
- 第12回 出生前診断と優生思想（2）：生殖医療の最前線
- 第13回 出生前診断と優生思想（3）：優生思想の誘惑と悪夢
- 第14回 出生前診断と優生思想（4）：遺伝子決定論を越えて
- 第15回 まとめ：真の共生社会を目指して

科目名： 日本国憲法			
英文名： Japanese Constitutional Law			
担当者： <small>ウラカフ ショウジ</small> 浦川 章司			
単 位： 2単位	開講年次：	開講期：	区 分： 必修選択の別： 選択科目

■授業概要

国家の基本法である憲法すなわち日本国憲法の基本原理は、政治・社会の基礎を構成するものであり、私たちの生活と密接な関係をもっています。すなわち憲法は、一方で政治の仕組みや活動の指針として国の政治を管理し、一方で私たち国民の社会生活における自由や生活を守っています。そこで私たちは、憲法を正しく理解し、憲法を生活の中で生かしていくことが重要になってくるのです。

本講義においては、日本国憲法の基本理念・原理について解説し、憲法の基礎的知識を修得し、憲法と私たちの生活との係わりについて考察することを目的としています。

■学習・教育目標および到達目標

日本国憲法の基本理念・原理を理解し、憲法の基礎的知識の修得および法的思考能力の修得を到達目標としています。

■教科書

開講時に指示します。

■参考文献

適宜指示します。

■関連科目

法律関連科目

■試験方法

筆記試験

■成績評価基準

定期試験（70%）、小テスト（毎回）（30%）・レポート（10%）で評価します。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 憲法と現代社会

第2回 憲法の種類、種類、特質、日本国憲法の概観

第3回 日本国憲法の基本原理

第4回 基本的人権総論

第5回 幸福追求権

第6回 法の下での平等

第7回 精神生活と人権①

第8回 精神生活と人権②

第9回 経済活動と人権

第10回 人身の自由と適正手続保障

第11回 社会権

第12回 裁判を受ける権利と裁判所

第13回 国民の政治参加と政治制度

第14回 地方自治と分権

第15回 定期試験

科目名： 日本語表現法		大塚国本 日 文 科		
英文名： Expression in Japanese		大塚国本 日 文 科		
担当者： <small>カトウ ヒサオ</small> 加藤 尚雄		大塚国本 日 文 科		
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

医療人として（入社試験時の面接、職場等）きちんとした話し方を身につけると共に、論文、レポート、報告書、等の書き方を学ぶ。具体的には、日常会話、敬語の使い方、文章の要約、レポート、エントリーシートの書き方を通して日本語表現力を高める。

■学習・教育目標および到達目標

課題論文、レポートの提出により、能力の向上を判断する。

■教科書

日本語表現法（三省堂）

■試験方法

期末試験（または期末論文）の実施

■成績評価基準

出席率60% + 期末テスト（または期末論文）20% + 各種提出論文20%

■授業評価実施方法

発表とレポートの提出

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 日本語表現法と薬剤師としてのコミュニケーション

第2回 小論文の書き方

第3回 文章の要約の仕方と練習

第4回 正しい言葉使いを身につける

第5回 案内状等の文章の書き方

第6回 文章の構成、起承転結、横書き文の基本

第7回 礼状や手紙の書き方

第8回 敬語について

第9回 間違った言葉遣いを直す

第10回 四字熟語とカタカナ語を学ぶ

第11回 敬語を話す

第12回 四字熟語とカタカナ語を交えた小論文の書き方

第13回 課題テスト

第14回 課題テスト

第15回 期末テスト

科目名： 社会福祉論				
英文名： Social Welfare				
担当者： 黒川 雅代子				
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

社会福祉の基本的な理念は、すべての人々の「QOL」の向上を目指し、「well-being」を追求するものである。しかし長い間社会福祉の制度政策は、貧困問題等を持つ特定の人々が利用するものであった。そしてそのサービス利用者は、「お上の世話になる」という社会的ステイグマを背負ってきた。しかし、本来社会福祉は、特定の人のためだけのものではない。すべての人々の生活の安寧のためにあるものである。

この授業では、上記のことをふまえ、薬学部の学生が修得しておくべき社会福祉の基本的な考え方と、医療と福祉の連携について理解を深めることに主眼をおく。そのため、出来るだけ具体的な実践例を挙げるように努める。

授業方法としては、講義形式のみではなく、ビデオ等の視聴覚教材も適宜利用し行う予定である。

■教科書

必要に応じて資料を配布する。

■参考文献

授業の中で適宜紹介する。

■試験方法

定期試験

■成績評価基準

定期試験（60%）、参加点（40%）

■授業評価実施方法

授業中にレポート課題を課し、参加点とする。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

第2回 社会福祉の概要（1）

第3回 社会福祉の概要（2）

第4回 高齢者支援の視点（1）

第5回 高齢者支援の視点（2）

第6回 障害者支援の視点（1）

第7回 障害者支援の視点（2）

第8回 精神障害者の視点（1）

第9回 精神障害者の視点（2）

第10回 医療・福祉の連携（1）

第11回 医療・福祉の連携（2）

第12回 子育て支援の視点

第13回 当事者支援の視点

第14回 まとめ

第15回 定期試験

科目名： 基礎数学			
英文名： Fundamental Mathematics			
担当者： <small>ハマダ ノボル</small> 濱田 昇			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	区 分： 必修選択の別： 選択科目

■授業概要

ある薬がある癌患者に効き目があるかどうかを動物実験で調べるにはどのような実験計画を立て、得られた実験結果をどのように統計的に処理をしたらよいかを考える。このような問題を解くためには、統計学の基礎知識が必要です。統計学を用いてデータ解析をするためには、微分積分学や線形代数学のような基礎数学の知識が必要です。この講義では、統計学と微分積分学の基礎とその応用を学びます。

■学習・教育目標および到達目標

薬学部の学生は統計学や微分積分学の基礎知識を身につけることが必要です。この講義の目標は薬の効き目などを考えるときに必要な統計学の基礎知識と統計学を学ぶときや統計学を用いてデータ解析をするときに必要な微分積分学の基礎知識を身につけることです。

■教科書

特に指定しません。

■試験方法

中間試験 45%
定期試験 45%
出席点 10%

■研究室・E-mailアドレス

e-mail : hamada@appmath.osaka-wu.ac.jp

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 確率とは何か

ある薬をある癌患者に投与したとき、効き目がある患者と効き目がない患者がいます。したがって、薬の効き目は「確率」を用いて表すことが必要です。1回目の目標は「確率」とは何かを理解し、確立の計算ができるようにすることです。

第2回 確率変数と確率分布

第3回 微分法—微分係数と導関数

第4回 導関数の計算

第5回 いろいろな関数の導関数

第6回 導関数の応用

第7回 中間試験—1回目の試験

第8回 積分法1—不定積分とその基本性質

第9回 不定積分の置換積分法と部分積分法

第10回 いろいろな関数の不定積分

第11回 積分法2—定積分とその基本性質

第12回 定積分の置換積分法と部分積分法

第13回 いろいろな関数の定積分

第14回 定積分の応用

第15回 定期試験—2回目の試験

科目名：基礎化学			
英文名：Basic Chemistry			
担当者：三木 康義			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	区 分： 必修選択の別： 選択科目

■授業概要

病気の人々の治療に使用される医薬品の大部分は有機化合物です。したがって、医薬品を知るためには有機化学を十分に習得する必要があります。本授業では4年間に学ぶ教科を理解する上の基礎のみだけでなく、医薬品を理解するための有機化学を修得する上で必要な内容です。それゆえ、化学の基本から有機化学の基礎までを説明することにより、真の意味での医薬品に関する基礎力をつけることを目的とします。

■教科書

有機化学の基礎づくり 反応の見方・考え方 G. M. Hornby, J. M. Peach著 熊懷綾丸、安藤章訳 化学同人

■参考文献

基礎化学 化学教科書研究会編 化学同人
 ビギナーズ有機化学 川端 潤著 化学同人
 ポイント有機化学演習 池田正澄著 廣川書店
 有機化学基礎の基礎 100のコンセプト 山本嘉則編著 化学同人

■関連科目

有機化学、化学

■試験方法

筆記試験

■成績評価基準

定期試験に出席、授業態度、小試験などを考慮して総合的に行う。

■授業評価実施方法

13回目の授業で、授業評価（15分程度）を行う。

■研究室・E-mailアドレス

y_miki@phar.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月-金、午後2時-5時

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 はじめに有機化合物とは

原子の構造 原子、原子核と電子、原子番号と質量数、同位体
 原子の配置とイオン 電子核、電子配置、価電子、希ガスの電子配置、イオン
 元素の性質と周期表 元素の周期律、周期表、周期と族
 <到達目標> 原子を理解する。

第2回 原子の電子配置

原子の構造 K核、L核、M核など
 軌道への電子の入り方 s軌道、p軌道
 量子化学 波動方程式と波動関数
 原子軌道 波動方程式による原子軌道
 軌道と量子数 シュレーディンガーの波動方程式、主量子数、方位量子数、磁気量子数、
 スピン量子数、パウリ (Pauli) の排他律とフント (Hund) の規則
 <到達目標> 原子軌道を理解する。

第3回 混成軌道の成り立ちと分子の形

sp³混成軌道
 sp²混成軌道
 sp混成軌道
 <到達目標> 混成軌道を理解する。

第4回 多原子分子の極性

量子化学による軌道および混成軌道表示
共有結合と分子
分子軌道 結合性軌道と反結合性軌道
<到達目標> 分子軌道を理解する。

第5回 分子—その働きを決めるさまざまな因子 (1)

共有結合と混成軌道 sp³混成軌道、sp²混成軌道、sp混成軌道
結合の形成 単結合および多重結合とσ結合およびπ結合との関係
<到達目標> 結合と混成軌道との関係を理解する。

第6回 分子—その働きを決めるさまざまな因子 (2)

共有結合と混成軌道 sp³混成軌道、sp²混成軌道、sp混成軌道
結合の形成 単結合および多重結合とσ結合およびπ結合との関係
<到達目標> 共有結合と混成軌道との関係を理解する。

第7回 分子—その働きを決めるさまざまな因子 (3)

結合の分極 双極子、誘起効果 二原子分子と双極子モーメント
分子構造の表記 構造式、官能基、電子(点)式
結合の強さと長さ 結合エネルギーと結合距離
<到達目標> 結合の分極と構造の表記法を理解する。

第8回 分子—その働きを決めるさまざまな因子 (4)

立体化学 結合角と分子の形状および異性について
分子間引力 双極子引力、van der Waals力および水素結合
<到達目標> 立体化学と分子間の相互作用を理解する立体化学と分子間の相互作用を理解する。

第9回 反応機構の担い手 電子とエネルギー

反応の型 置換反応、付加反応、脱離反応、ヘテロリティックおよびホモリティックな結合
求核試薬、求電子試薬、ラジカル
反応機構を表示する方法
電子(点)式と曲がった矢印を使って反応機構を表示する方法
<到達目標> 反応機構を表示する方法を理解する。

第10回 酸と塩基

脱離基や求核試薬としての塩基の反応性
イオン反応(その1) 求核試薬が関係する反応(1)
求核試薬の構造について、求核試薬と塩基との関係
求核試薬との反応における実際の例 水酸化物イオンおよびアミン
<到達目標> 有機反応における求核試薬を理解する。

第11回 イオン反応(その1) 求核試薬が関係する反応(2)

脱離基をかえる アルコールの置換反応
二段階求核置換反応—カルボカチオン中間体
求核置換反応と脱離反応との競争
<到達目標> 種々の求核置換反応を理解する。

第12回 イオン反応(その1) 求核試薬が関係する反応(3)

求核試薬とアルデヒドおよびケトンとの反応
求核付加反応について：正四面体中間体、水素化物イオン供与体(NaBH₄およびLiAlH₄)
求核付加—脱離反応について：ヒドラジン、ヒドロキシルアミン
<到達目標> 求核試薬とアルデヒドおよびケトンとの反応を理解する。

第13回 イオン反応(その1) 求核試薬が関係する反応(4)

エステル、カルボン酸およびその誘導体と求核試薬との反応
カルボン酸誘導体の反応性の違いにおける効果について
加水分解反応とエステル化反応
エステルのリチウムテトラヒドリアルミナート(LiAlH₄)還元
授業評価(15分程度)を行う。

第14回 イオン反応(その1) 求核試薬が関係する反応(5)

アミド、塩化アシル、酸無水物の反応性の違い
いろいろな種類のハロゲン化物の求核試薬に対する反応性の比較
<到達目標> - カルボン酸誘導体および種々のハロゲン化物の反応を理解する。

第15回 定期試験

科目名	履修者数	単位数	開講時期	学年	講義時間
-----	------	-----	------	----	------

要修者要綱

本講義の目的は、有機化学の基礎となる反応機構の理解と、有機化学の発展分野への応用にある。... (faint text continues)

科目設置の目的

本講義は、有機化学の基礎となる反応機構の理解と、有機化学の発展分野への応用にある。... (faint text continues)

講義内容

有機化学の基礎となる反応機構の理解と、有機化学の発展分野への応用にある。... (faint text continues)

参考文献

有機化学の基礎となる反応機構の理解と、有機化学の発展分野への応用にある。... (faint text continues)

科目担当

担当教員名
担当教員名
担当教員名

履修条件

履修条件に関する規定の中 (詳細)
履修条件に関する規定 (詳細)

基礎知識

基礎知識に関する規定の中 (詳細)
基礎知識に関する規定 (詳細)

入試科目

入試科目に関する規定の中 (詳細)
入試科目に関する規定 (詳細)

入試科目

入試科目に関する規定の中 (詳細)
入試科目に関する規定 (詳細)

科目設置の目的

科目設置の目的に関する規定の中 (詳細)
科目設置の目的に関する規定 (詳細)

本講義は、有機化学の基礎となる反応機構の理解と、有機化学の発展分野への応用にある。... (faint text continues)

参考文献

有機化学の基礎となる反応機構の理解と、有機化学の発展分野への応用にある。... (faint text continues)

科目担当

担当教員名
担当教員名
担当教員名

履修条件

科目名： 基礎生物学				
英文名： Basic Biology				
担当者： <small>タケチ マサユキ</small> 武智 昌幸				
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

この講義は細胞の構造と機能を中心とした、生物学の基礎的な話を中心となるが、自主的な学習のために毎回の授業に関連した疑問点や興味点をインターネットなどで調べて、そのレポートを次回の授業時に提出してください。また、講義に使用する教科書は図や写真が多く、文章は簡潔で読みやすいので復習時に読み直してください。自主的な勉強態度を期待します。特に、わからない所はどんどん質問してください。メールでも結構です
なお、このシラバスにリンクしている「武智のページ」のページの「基礎生物講義中継」を参照してください。授業で使う図などがリンクしていますので、予習や復習に利用してください。

■学習・教育目標および到達目標

生物を構成している細胞について理解してもらうことを目標にする。そのために細胞の構造と機能、細胞を構成する成分、細胞分裂、酵素、呼吸、DNAの複製、転写、翻訳などの機構などを理解してください。

■教科書

フォトサイエンス生物図録 鈴木孝仁 監修 (数研出版) 最新版
配布プリント

■参考文献

ビジュアルワイド図説生物 水野丈夫 監修 (東京書籍) 最新版
生化学辞典 今堀和友ら 監修 (東京化学同人) 最新版
生化学 鈴木紘一 編 (東京化学同人) 最新版

■関連科目

生物学演習
生物学
基礎生化学

■試験方法

(種類) 中間試験と定期試験
(方式) 記述式とマーク式

■成績評価基準

中間試験 (40%)
定期試験 (40%)
レポート (20%)

■研究室・E-mailアドレス

細胞生物学第二研究室
takechi@phar.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

いつでも結構です。遠慮せずに質問に来てください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 細胞の構造と働き

生物の基本単位である細胞の構造とはたらきについて概観する。特に原核細胞と真核細胞ならびに動物細胞と植物細胞との違いについて理解してもらいたい。

第2回 細胞小器官

真核細胞の細胞小器官である核、ミトコンドリア、ゴルジ体、小胞体、リソソームなどについて、その構造と働きについて紹介する。生物の基本である細胞の機能を理解するために重要ですので、よく勉強してください。

第3回 糖質と脂質

糖はエネルギー源としてだけでなく、細胞表面の糖鎖は細胞の顔としても重要なので、その基本となる単糖類の立体化学を中心に講義を行う。また、脂質は膜成分として重要なリン脂質と糖脂質を中心に話をします。

第4回 タンパク質と核酸

タンパク質を構成する 20 種類のアミノ酸の性質と構造を覚える。二次構造の α ヘリックスや β シート、三次構造や四次構造を紹介する。核酸の基本骨格を理解し、構成成分である塩基と糖の構造を覚える。DNA と RNA との構造の違いなどを説明できるようにしてください。

第5回 細胞における物質輸送

細胞膜の選択的透過性は生命活動の維持のために重要なことですが、その基本となる能動輸送のしくみについて理解してください。また、分泌タンパクや膜タンパクの細胞内輸送についても簡単に紹介します。細胞膜の動的な面を理解してください。

第6回 細胞分裂

細胞分裂は細胞の分化増殖や生殖にとって重要なので、よく勉強してください。動物細胞と植物細胞の分裂の違い、体細胞分裂と減数分裂との違いなどに注意してください。特に分裂過程における染色体の動きを中心によく理解してください。

第7回 中間試験

1回から6回までの講義中継の（特に赤字部分に関連した）内容を理解しておいてください。

第8回 酵素

酵素の基質特異性、酵素活性の調節など酵素反応が生命活動にとって如何に重要であるかを理解してください。ヒトの消化酵素などを例にして、酵素の種類と働きをまとめてください。

第9回 呼吸

外呼吸については特に血液による酸素と二酸化炭素の運搬機構をよく理解してください。また、細胞内呼吸は解糖系、クエン酸回路、電子伝達系の3つに大別されます。これらの反応系の特徴をよく理解してください。

第10回 DNAの複製

DNA の二重らせん構造において二本鎖は互いに逆平行で相補的塩基対を形成していることをしっかりと理解してください。生命科学の基本ですので、頑張ってください。

第11回 転写

DNAからRNAへの転写過程の機構を理解してください。特に転写開始の機構、転写後の修飾の過程などをよく理解してください。生命科学の基本ですので、頑張ってください。

第12回 翻訳

mRNAの情報から如何にしてタンパク質が合成されていくか、その機構を理解してください。特に、mRNA, rRNA, tRNAの役割などについて勉強してください。生命科学の基本ですので、頑張ってください。

第13回 形質発現の調節

分化や増殖の調節は生命活動に重要で、ポストゲノム最大の課題であり、今後ますます研究の進展が期待される分野です。そこで階層的遺伝子発現機構について、特に転写調節を中心に解説します。

第14回 遺伝子工学の基礎

最近の分子生物学発展の原動力となったバイオテクノロジーの初歩を解説します。10～13 回までの話が基本となっているので、よく復習してから受講してください。遺伝子導入、PCR 法、塩基配列決定法などについて簡単に解説します。

第15回 定期試験

8回から14回までの講義中継の（特に赤字部分に関連した）内容を理解しておいてください。

科目名：基礎物理学				
英文名：Basic Physics				
担当者：伊藤 哲夫				
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

物理は化学、生物学、地学などと並べられて、理科の一部として取り扱われている。しかし、化学も生物学も地学もそこに出てくる問題をどんどん突き詰めていくと、物理になってしまう。これは、物理が「自然界の森羅万象の仕組み」を解き明かす科学だからです。

つまり、世の中の現象を「なぜだろう」、「一般的に説明するのにどうしたらよいのだろう」と自然現象を突き詰めていくのが物理です。現象を物理的に考えると、日頃不思議に思っていた出来事がすっきりと説明できるところに物理のおもしろさがあります。

薬学部^イの学生は、高校時に物理を選択した学生が非常に少ないことを鑑み、授業は簡単な例題や日頃経験する現象を取り上げ、高校の物理ⅠB・Ⅱ程度の内容をできるだけ簡単に説明し、物理に興味を持ってもらう事を主として進めたいと考えている。

高校時、物理を選択した人には優しすぎる授業である。

■学習・教育目標および到達目標

薬学を学ぶ諸君が常に起こりうる現象を科学的なセンスで説明し、理解できる人に成長する。

■教科書

- ・理解しやすい「物理ⅠB・Ⅱ」 近角聰信 編（文英堂）
プリントも用いる予定。

■参考文献

- ・「基礎物理学」 原 康夫 著（学術図書出版社）
- ・チャート式「新物理ⅠB・Ⅱ」 力武常次 著（数研出版）
- ・図解雑学「物理のしくみ」 井田屋文夫 著（ナツメ社）

■関連科目

- ・物理学、数学

■試験方法

- （種類）中間試験、定期試験
- （方式）記述式またはレポート式

■成績評価基準

- 中間試験（45％） 定期試験（45％）
- 出席状況（10％）
- レポート評価（基準点に満たない場合対象とする）

■授業評価実施方法

- ・実施時期（中間試験前後） 所要時間（約20分）

■研究室・E-mailアドレス

原研（放射線安全工学）
E-mail（tetsito@msa.kindai.ac.jp）

■オフィスアワー

- ・月、水、金曜日午後
- ・22号館原子力研究所管理棟2階 内線4423

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 物理を学ぶにあたって

簡単な物理史の解説
生活の中の物理学
授業概要の説明

<到達目標>物理に興味を持つ。

第2回 運動と力

運動の表し方

- ・直線運動の速度・加速度
- ・曲線運動の速度・加速度

<到達目標>速度・加速度を学び、ベクトルとしての理解を取得する。

第3回 量力による運動

- ・重力による鉛直方向の運動
- ・放物運動

<到達目標>重力による鉛直方向の運動を確実に理解し、放物運動を学ぶ。

第4回 力と運動

- ・力・力のつりあい
- ・ニュートンの運動の3法則
- ・いろいろな力
- ・運動方程式の応用
- ・慣性力

<到達目標>ニュートンの運動の3法則をしっかり学ぶ。

第5回 円運動・万有引力

- 円運動
 - ・等速円運動
 - ・遠心力
- 万有引力
 - ・万有引力の法則
 - ・人工天体の運動

<到達目標>遠心力、ケプラーの法則、万有引力の法則を理解する。

第6回 剛体のつりあい・運動量

- 剛体のつりあい
 - ・剛体に働く力
 - ・剛体に働く力のつりあい
- 運動量
 - ・運動量と力積

<到達目標>力の合成とつりあいについて学ぶ。

第7回 運動量

- ・運動量保存の法則
- ・反発係数

<到達目標>運動方程式と関連の深い運動量や力学について学び、運動量保存の法則を理解する。

第8回 中間試験

第9回 日本と世界のエネルギーの現状

私たちが住む地球の総合的エネルギー・環境を考える。(講演形式)

<到達目標>エネルギーの大切さ、エネルギー資源の現状・環境について総合的な知見を得る。

第10回 エネルギー

- 仕事と力学的エネルギー
 - ・仕事
 - ・運動エネルギーと位置エネルギー
 - ・力学的エネルギー

<到達目標>仕事の定義を学び、力学的エネルギー保存の法則を学習する。

第11回 熱とエネルギー

- ・熱と温度

- ・気体の法則
- ・気体の内部エネルギー
- ・エネルギーの変換と保存

<到達目標>熱と温度の関係や熱量保存の法則を理解し、ボイル・シャルルの法則を気体の内部エネルギーへと発展させ、熱力学の法則や熱機関を学習する。

第12回 波動

- ・波の伝わり方
- ・正弦波
- ・横波と縦波

<到達目標>波の伝搬現象を学び、波が時間と共に変化していく波動を理解する。

第13回 波の性質

- ・重ね合わせの原理と波の干渉
- ・波の反射・屈折・回折

<到達目標>波の重ね合わせ原理を学び、干渉現象や定常波を理解する。反射・屈折・回折をホイヘンスの原理から理解する。

第14回 音波

- ・音の伝わり方
- ・発音体の振動
- ・ドップラー効果

<到達目標>縦波である音について学び、発音体の振動やドップラー効果を理解する。

第15回 定期試験

科目名： 情報科学入門				
英文名： Introduction to Drug Information				
担当者： <small>カケヒ カズアキ ムラカミ エツコ</small> 掛樋 一晃・村上 悦子				
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

昨今のインターネットの発達は目覚ましく、誰もがコンピュータをツール（道具）として使用する必要性が高まりつつある。薬学の領域においても、薬剤師として調剤、処方鑑査などの業務は当然であるが、患者に的確な服薬指導を行うためのツールとしてコンピュータは不可欠である。また、医師あるいは看護婦などの医療関係者に的確な情報を提供するために、文書作成、データベース検索なども薬剤師として必須の技術となっている。本講義では実際にコンピュータを使用しながら、パソコンの基本操作を修得し、さらに文書作成・表計算・プレゼンテーションなどの基本的なアプリケーションソフトについてその操作法を修得する。また、e-mail・インターネットの活用についても学ぶ。

■教科書

情報処理リテラシー教育テキスト（大学堂書店にて販売）

■参考文献

「薬学系のための情報リテラシー」佐藤憲一、川上順子著（共立出版）
「インターネットと情報倫理」社団法人私立大学情報教育協会編

■関連科目

医薬品情報科学1、医薬品情報科学2、情報科学実習、医薬品情報科学実習、医療薬学実習、病院実習

■試験方法

試験は実施しないが、課題を各人に課し自由時間などを利用して課題レポートを作成して提出する。

■成績評価基準

出席（最も重視する）及び課題レポートにより評価する

■研究室・E-mailアドレス

医薬品情報学研究室
掛樋一晃：k_kakehi@phar.kindai.ac.jp
コンピュータ室
村上悦子：murakami@phar.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

e-mailによる質問を歓迎する。k_kakehi@phar.kindai.ac.jp：
内線：3822（受付曜日・時間：随時）：直接面談 薬学部・医薬品情報学研究室（3階、東端）：受付曜日・時間：随時

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 インターネットと情報倫理

「情報倫理」とは、「情報社会において、我々が社会生活を営む上で、他人の権利との衝突を避けるべく、各個人が最低限守るべきルールである」と定義できる。本講では情報倫理について、インターネットとの関連も踏まえつつ、具体的事例を元に最低限のルールを解説する。本講で述べる事柄は各種の情報を取り扱う上で最も基本的なものであり、その概要について十分心得なければならない。

第2回 パソコン初歩、Windows

講義で使用するパソコンの概要
パソコンの起動と終了、基本的操作
Windowsの概要

第3回 文書作成（1）

- ① Wordの概要
- ② 新しい文書の作成（文字入力、変換）
- ③ ファイル保存

第4回 タッチタイピング（ブラインドタッチ）技術の修得

パソコンに習熟する第1歩は、キーボード入力に慣れることである。キーボードを見なくても、文字入力できるようにタッチタイピングを是非修得すること。

第5回 文書作成 (2)

- ① 文書作成
- ② 文書編集 (文字揃え、文字修飾)
- ③ 文書の印刷 (プリンター設定、文書書式設定)
- ④ ファイルの保存

第6回 文書作成 (3)

- ① 表の作成
 - ② 文書への表の挿入
 - ③ 文書作成ドリル
- 課題として2, 3種類の文書を作成する。

第7回 文書作成 (4)

課題として2, 3種類の文書を作成する。

第8回 Microsoft Excel基礎 (表計算の基礎)

- ① Excel2000概要
- ② 表計算機能 (関数、表編集)

第9回 表計算応用

- ① ブック機能、セルの参照、条件判断、該当データ検索
- ② ワークシートの連携
- ③ グラフ作成
- ④ 印刷

第10回 表計算課題学習

表計算、グラフ作成についてExcelを用いていくつかの課題をレポートとして提出する。

第11回 プレゼンテーション (1)

自分の意見や調査したさまざまな情報などを、相手に的確に伝えるプレゼンテーション技術の習得は、薬剤師として患者や医師または看護婦などに情報を提供するために重要である。

- ① PowerPoint2000基礎 (プレゼンテーション概要)
- ② アウトラインの概念
- ③ プレゼンテーション作成

第12回 プレゼンテーション (2)

- ① 表およびワークシートの挿入
- ② グラフの挿入
- ③ グラフィック (図) の挿入
- ④ スライドショー、ノートブック、ハンドアウト

第13回 プレゼンテーション (3)

最終課題

将来薬剤師として医療の場でどのような形で貢献していきたいかという諸君の主張を、Word2000文書としてA4版用紙 (3枚以内) にまとめて提出する。レポートには少なくとも図および表を各1つずつ含めること。

第14回 プレゼンテーション (4)

最終課題作成予備時間

第15回 電子メール

- ① 電子メールのエチケット
- ② 電子メールの送信と受信
- ③ 電子メールの返信
- ④ 添付文書付きメール送信

科目名： 自然環境論				
英文名： Natural Environment				
担当者： <small>カワサキ ナオヒト</small> 川崎 直人				
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

ヒトは、火を発見して以来、自然にある様々な物質を生活の中に取り入れ、自然をヒトにとって都合のよい環境に変化させ、豊かな社会、幸福な生活を手に入れてきた。一方、それとは引き替えに予想外の環境悪化、経済の不均衡、倫理の荒廃などの社会問題を抱え込んでしまった。ヒトの生存は他の生命体の存在に依存しており、きれいな水、空気、土壌およびエネルギーをも必要としている。身近な環境を維持することは、ヒトの生存に不可欠にもかかわらず、今日、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、熱帯雨林の減少、砂漠化、野生生物の種の減少、海洋汚染、有害廃棄物の越境移動、発展途上国の公害問題などの地球環境問題も深刻な状況になってきている。

環境を正しく認識するために、日本および地球規模の環境問題の現状を概説し、今世紀における環境の考え方、環境倫理などについて学習する。

■教科書

「環境科学要論 現状そして未来を考える」 世良 力 著（東京化学同人）

■参考文献

「やさしい環境科学」 保田 仁資 著（化学同人）
「生態系と地球環境のしくみ」 大石 正道 著（日本実業出版社）

■関連科目

公衆衛生学1、公衆衛生学2

■試験方法

臨時試験（11月） 定期試験（1月下旬）
各試験ともに論述形式・客観形式

■成績評価基準

定期試験（40%）
臨時試験（40%）
出席状況（20%）

■授業評価実施方法

実施時期（授業回数 第13回時）
所要時間（15分程度）

■研究室・E-mailアドレス

e-mail: kawasaki@phar.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

随時

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 講義に関する全般的解説

<項目・内容>環境科学の目的と環境問題

環境科学の目的を明らかにするとともに3E（Economy, Energy, Environment）の調和の重要性を理解する。また、人間活動による環境破壊問題の総合的最適化を目指し努力することの必要性について考究する。さらに、環境問題への取り組み、解決のために必要な原因の究明、問題の拡散課程などを把握し、根治療法的対策の重要性を修得する。

<到達目標>環境科学の目的と環境問題への取り組みおよび原因を理解する。

第2回 人口と食糧問題

世界的な問題としては、人口爆発、経済格差の拡大、宗教紛争などのほか、食糧不足、資源の枯渇が挙げられる。特に、食糧不足および資源の枯渇問題は、人口問題と関連が大きく、さらに人口問題は食糧問題に起因する。ここでは、世界の人口の現状、世界の食糧問題として農地の増加状態、農地の生産力、農業技術、食糧生産の地域格差、日本の人口と食糧事情などについて講義する。

<到達目標>世界人口と食糧問題との関わりを理解する。

第3回 資源、エネルギーと環境

<項目・内容>ヒトの生活レベルを向上するには、生活資材の増産、雇用の確保なども必要であり、このためには産業

の振興、経済の発展が不可決である。しかし、エネルギー消費、特に化石燃料の消費の増加は、資源の枯渇問題のみではなく、地域の大气汚染、地球温暖化などの環境問題とも密接に関わっている。ここでは、エネルギーの不足問題、世界または日本のエネルギーと環境との関係などについて講義する。

<到達目標>エネルギー需要および生産と環境との関わりを理解する。

第4回 自然の浄化作用と環境汚染物質

<項目・内容>地球上にある物質の要素、すなわち炭素、窒素、酸素などの元素は、物質不滅の法則にしたがって循環している。元素の量は一定であるが、それらは化合物、生物などとして形を変え、移り変わっている。人間活動の結果、発生する廃棄物や環境汚染物質も自然の分解・浄化を経て大気、水、土壌圏内を循環している。ここでは、環境汚染物質および人工有害物質の自然浄化作用について講義する。

<到達目標>人工有害物質と環境汚染物質の自然浄化作用を理解する。

第5回 日本の公害とその防止

<項目・内容>日本では1950年代から急速な経済発展を遂げ、その引き替えに全国各地で大規模な公害問題、例えば、水俣病、イタイイタイ病、四日市喘息、カネミ油症、瀬戸内重油流出事件、ヘドロ公害などが発生した。ここでは、日本の公害、環境関連事故の歴史とその発生原因、公害防止技術、公害防止の四原則（原因・発生源の抑制、発生量の抑制、原因物質の拡散防止、汚染物質の無害化）について講義する。

<到達目標>日本の過去における公害とその防止策を理解する。

第6回 大気環境

産業および文明の発展に伴い工場、発電所、自動車などから種々の大気汚染物質が排出されている。大気環境基準は、「人間の<項目・内容>健康を保護するうえで維持されることが望ましい基準」として法的規制されている。ここでは、日本において環境基準が定められている8種類のうち二酸化窒素、二酸化硫黄、一酸化炭素、光化学オキシダント、浮遊粒子状物質の5種について、発生源、生態系への影響、測定法、現状などについて講義する。

<到達目標>大気汚染によるヒトへの影響とその防止策を理解する。

第7回 臨時試験

第1回から第6回までの講義内容について記述形式で臨時試験を行う。

第8回 水の環境

<項目・内容>環境水中に汚濁物質が流入すると、環境圏内で複雑に絡み合いながら、ヒトを含めて多くの生物に大きな影響を及ぼすため、水の環境の保全には万全の努力を払わなければならない。ここでは、水質汚濁、水質汚濁物質と健康障害、水の環境基準、水質汚濁の概況（河川、湖沼、閉鎖性水域、海水、地下水の汚染）、水質浄化対策（水質汚濁物質の排出削減、排水処理法、下水処理、終末処理）などについて講義する。

<到達目標>水質汚濁によるヒトへの影響とその防止策を理解する。

第9回 土壌環境

<項目・内容>大地の状況に関する環境変化には、自然現象およびヒトの開発行為を原因とするものがある。土壌の質的環境に関しては人為的要因による農地の地力減退、土壌汚染などがある。大地は、大気圏、水圏と相互に関連して存在しているため、土壌環境は大気汚染や水質汚濁とも関係が深い。ここでは、土壌生成と喪失、土壌汚染、土壌汚染防止策、地盤沈下、地盤の液状化現象などについて講義する。

<到達目標>土壌汚染によるヒトへの影響とその防止策を理解する。

第10回 廃棄物とリサイクル

<項目・内容>ヒトの過剰な活動の結果、豊かな物質文明が実現できたが、その反面、大量に排出される廃棄物の山がヒトの社会活動の支障となり始めている。明るい21世紀にするためには、大量生産、大量消費、大量廃棄の消費型社会より脱却することが必要である。ここでは、廃棄物の現状と分類、ゴミの収集と焼却処理、最終処分場、廃棄物のリサイクルなどについて講義する。

<到達目標>消費型社会における問題点と循環型社会の構築を理解する。

第11回 地球温暖化

<項目・内容>地球温暖化問題は、急速に問題として取上げられるようになってきた。その主原因は、二酸化炭素の増加であることが指摘されているが、その他の物質による影響も大きい。ここでは、地球のエネルギーバランスと気温の変化、温室効果ガスの種類とその影響、炭素循環、大気中の二酸化炭素濃度の変化、世界の二酸化炭素の排出量、地球温暖化の予測、二酸化炭素の削減対策とその効果などについて講義する。

<到達目標>地球温暖化の原因物質およびその削減対策を理解する。

第12回 酸性雨

<項目・内容>酸性雨は、1950年代北欧三国にある湖沼の酸性化と生態系への影響として問題となり、その後、北米、東南アジア、中国など世界中で問題となっている。その原因は、産業活動、排ガス中の酸性物質であり、またそれらが国境を越えて周辺諸国にも拡散することでも問題となっている。ここでは、酸性雨の定義と発生機構、酸性雨による被害、

世界および日本における酸性雨状況、酸性雨防止対策などについて講義する。
<到達目標>酸性雨の原因およびその防止策を理解する。

第13回 オゾン層の破壊

<項目・内容>オゾン層破壊は、1974年にローランドとモリーナが、フロンがオゾン層を破壊するという仮説を発表したことで明らかになった。オゾンホールとは、上空におけるオゾン濃度が急激に減少することをいい、南極や北極上空で確認されている。オゾンホールの出現により太陽光に含まれる紫外線が地表へ到達し生態系へ影響する。ここでは、オゾン層と紫外線、オゾン層破壊物質、オゾン層保護の動き、オゾン層破壊防止対策などについて講義する。
<到達目標>オゾン層破壊の原因およびその防止策を理解する。

第14回 熱帯雨林の減少

<項目・内容>世界の森林は、生物の生存や気候の安定化などに大きな役割を担っている。しかし、ヒトは過剰な活動により森林をつぎつぎと伐採し、地球環境全体に大きな損害を与えている。熱帯雨林の保護は、地球温暖化防止および生物種の保護などのために重要である。ここでは、熱帯雨林の効用、世界の熱帯雨林の破壊状況とその原因、木材資源の利用状況、熱帯雨林の保護対策などについて講義する。
<到達目標>熱帯雨林の減少の原因およびその防止策を理解する。

第15回 定期試験

第7回から第14回までの講義内容について記述形式で臨時試験を行う。

科目名：化学演習				
英文名：Exercises of Chemistry				
担当者：ムラオカ オサム タナベ ゲンゾウ タガ アツシ ミタムラ クニコ 村岡 修・田邊 元三・多賀 淳・三田村 邦子				
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期・集中	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

「化学」に関しては、既に高校までに多くの事項を学習しているが、薬学で専門教科として学ぶ有機化学、物理化学あるいは分析化学を習得するためには、今までに学習した事柄を十分に理解することは勿論のこと、自在に活用できるレベルまで知識を深めておく必要がある。

本演習では、「化学」全般の内容の中から、特に重要でかつ学生にとっては理解が難しいと思われる項目をいくつか選び、知識の整理を目的とした講義と演習を実施する。

講義は「物理・分析化学」および「一般・有機化学」に分かれて、それぞれ7回ずつ実施する。

■教科書

「マクマリー有機化学」(上) 《第5版》
J. McMurry 著、伊東ら 訳(東京化学同人) 4500円
配布プリント

■関連科目

基礎化学、化学、有機化学1, 2, 3、薬品分析学1, 2

■試験方法

定期試験(7月下旬)

■成績評価基準

随時実施する小テスト、定期試験および出席状況などにより総合的に判断する。

■研究室・E-mailアドレス

薬品分析学研究室
(鈴木) 内線3856 e-mail: suzuki@phar.kindai.ac.jp
(多賀) 内線3856 e-mail: punk@phar.kindai.ac.jp
有機薬化学研究室
(村岡) 内線3808 e-mail: muraoka@phar.kindai.ac.jp
(田邊) 内線3854 e-mail: tanabe@phar.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

随時

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 化学計算の基礎

<項目・内容>

化学計算を修得するためには、化学量論の考え方と様々な単位を理解する必要がある。ここでは、化学量論に関する概説に加えて、SI基本単位とその位取り接頭語、様々な濃度表記(モル濃度、規定度、%)についての解説する。またモルや当量に関する計算や含量や純度計算に関する演習も実施する。

<到達目標>

基本単位の定義を説明できる。濃度計算ができる。

第2回 容量分析の基礎と計算

<項目・内容>

実験化学は得られた現象を数値化することによって発展したといっても過言ではない。したがって、計測して得られた数値をどのように取り扱うべきか、またその値の信頼性はどの程度なのかを十分に理解する必要がある。ここでは有効数字や誤差に関する基本について確認した後、具体的な実験操作や測定結果にもとづいた計算と演習を実施する。

<到達目標>

有効数字を理解し、計算値を正しく表すことができる。

第3回 偶然誤差の推計学的処理

<項目・内容>

真の値を推定したり、分析法の精度を評価する上で統計学的な知識や誤差に関する基本的な知識が必要である。ここでは統計学的な知識と誤差の原因やその対処法に関して、基本的な考え方を学習する。実際の測定結果などを例にとり、信頼性を評価したり異常値を棄却するための検定方法を学習する。

<到達目標>

実験値に含まれる誤差を正しく推定できる。

第4回 容量分析の計算

<項目・内容>

容量分析の操作について復習し、当量やグラム当量、対応量などについて復習する。特に酸-塩基滴定に的を絞り、代表的な滴定法の種類を再確認し、対応量や純度計算などの演習を実施する。

<到達目標>

容量分析における当量や対応量を正しく理解する。

第5回 酸と塩基

<項目・内容>

酸と塩基はもっとも基本的な概念でありながら、正しく理解出来ていない学生が多い。そこで、Arrhenius, Bronsted, Lewisの酸塩基の定義を学習し、それぞれをどのように使い分けるべきかを演習を通して習得する。

<到達目標>

Arrhenius, Bronsted, Lewisの定義に応じて、化学反応を分類できる。共役酸と共役塩基、硬い酸と軟らかい酸とはどういう事か説明できる。

第6回 酸化と還元

<項目・内容>

定量分析や定性分析で利用される酸化還元反応を通して、重要な元素や化合物の取り得る酸化数、重要な酸化還元反応式の導き方、反応に伴う色の変化などを総合的に学習する。

<到達目標>

化学式から構成元素の酸化数を求めることができる。酸化還元反応の反応式を正しく書ける。反応式から当量関係を答えることができる。

第7回 化学平衡

<項目・内容>

特に電離（酸-塩基）平衡を中心に、化学平衡反応に対する正しいイメージ、平衡定数式の書き方、質量作用則や電荷均衡則を取り入れた化学種の濃度の求め方を演習を通して学習する。

<到達目標>

K_a あるいは pK_a が与えられれば、1 mol/L酢酸、1 mol/L酢酸ナトリウム、およびこれらの混合液のpHを正しく求めることができる。難溶性塩における溶解度と溶解度積の関係を求めることができる。

第8回 構造と結合

<項目・内容>

① 原子の軌道と電子配置 ② 共有結合と sp , sp^2 , sp^3 混成軌道などに関する演習を行う。

<到達目標>

化学結合に関わる原子の軌道と電子配置および分子の構造について理解を深める。

第9回 極性結合とその重要性

<項目・内容>

① 極性共有結合 ② 双極子モーメント ③ 共鳴 ④ 化合物の酸性・塩基性などに関する演習を行う。

<到達目標>

結合の分極や官能基の電子状態、化合物の酸性・塩基性について理解を深める。

第10回 アルカンとシクロアルカン

<項目・内容>

① 命名法 ② アルカンの性質 ③ シス-トランス異性などに関する演習を行う。

<到達目標>

アルカンとシクロアルカンの構造、化学的性質および反応性に関する理解を深める。

第11回 アルカンとシクロアルカンの立体化学

<項目・内容>

① 立体配座 ② 立体配置 ③ アキシアル結合エクアトリアル結合などに関する演習を行う。

<到達目標>

アルカンとシクロアルカンの立体配座や立体配置に関して化学理解を深める。

第12回 アルケン

<項目・内容>

① 命名法 ② シス-トランス異性 ③ アルケンの安定性 ④ アルケンの製法 ⑤ アルケンの反応性：付加、還元、酸化などに関する演習を行う。

<到達目標>
アルケンの構造、化学的性質および反応性に関する理解を深める。

第13回 アルキン

<項目・内容>

① 命名法 ② アルキンの製法 ③付加反応④ アルケンの製法 ⑤ アルケンの反応性：付加、アルキル化などに関する演習を行う。

<到達目標>
アルキンの構造、化学的性質および反応性に関する理解を深める。

第14回 有機化合物の立体化学

<項目・内容>

① 鏡像異性体と四面体炭素、② 絶対配置の表示法、③ ジアステレオマー、メソ化合物、ラセミ体などに関する演習を行う。

<到達目標>
立体異性と分子の対掌性の原因となるキラリティーについて理解を深める。

第15回 定期試験

科目名： 生物学演習				
英文名： Exercises of Biology				
担当者： <small>イチダ セイジ</small> 市田 成志・ <small>タケチ マサユキ</small> 武智 昌幸・ <small>ミヤケ ヨシマサ</small> 三宅 義雅・ <small>ヤギ ヒデキ</small> 八木 秀樹				
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期・集中	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

大学受験レベルの生物学の問題を演習することによって、今後の大学における生命科学の履修を容易にすることを目標とする。

この目標を達成するため、クラスを四つの少人数グループ（薬学コースと医療薬学コースをそれぞれ、さらに二つのグループ）に分ける。4人の担当教員が得意分野を四つのグループに対して順番にローテーションして講義する予定である。この目標を達成することによって、学生は生命科学に関する広い知識をより一層深めることができ、薬学領域の応用科目を理解するための基礎学力を養うことができる。

■学習・教育目標および到達目標

生命科学に関する広い知識をより一層深め、薬学領域の応用科目を理解するための基礎学力を養う。

それぞれの教員が掲げる項目の基本内容を学び、かつ十分理解する。

■教科書

各教員がそれぞれ担当する分野に関連した問題を抜粋したプリントを作成し、これをテキストとして使用する。なお、プリントの配布は初回の講義時におこなう。

■参考文献

- ・「チャート式 新生物 IB・II」 小林弘 著（数研出版）本体1,800円
- ・「チャート式 要点と演習 新生物 IB・II」 吉田邦久 著（数研出版）本体1,250円
- ・「フォトサイエンス生物図録」 鈴木考仁 監修（数研出版）本体790円

■関連科目

基礎生物学、生物学、基礎生化学、解剖生理学1

■試験方法

試験を実施する。試験の方式は記述式またはマーク式を採用する。

■成績評価基準

試験および出席状況を評価基準とする。

■研究室・E-mailアドレス

近畿大学薬学部のHPの「スタッフ」をクリックして開ける（訪ねる）と各教員のメールアドレスがあり、各教員に連絡可能。

■オフィスアワー

いずれの教員も、原則的に質問は随時、メールまたは研究室にて受付可能。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回

<項目・内容>

- グループ①：「生殖と発生」に関する演習（担当：市田）
- グループ②：「細胞の構造と機能」に関する演習（担当：武智）
- グループ③：「動物の組織と器官」に関する演習（担当：八木）
- グループ④：「刺激の受容」に関する演習（担当：三宅）

第2回

- グループ①：「遺伝」に関する演習（担当：市田）
- グループ②：「細胞を構成する物質」に関する演習（担当：武智）
- グループ③：「体液による生体防御」に関する演習（担当：八木）
- グループ④：「神経系」に関する演習（担当：三宅）

第3回

- グループ①：「遺伝子と形質の発現」に関する演習（担当：市田）
- グループ②：「酵素と呼吸」に関する演習（担当：武智）
- グループ③：「生命の起源と進化」に関する演習（担当：八木）
- グループ④：「動物の恒常性と調節」に関する演習（担当：三宅）

第4回

- グループ①：「細胞の構造と機能」に関する演習（担当：武智）

- グループ②：「動物の組織と器官」に関する演習（担当：八木）
グループ③：「刺激の受容」に関する演習（担当：三宅）
グループ④：「生殖と発生」に関する演習（担当：市田）

第5回

- グループ①：「細胞を構成する物質」に関する演習（担当：武智）
グループ②：「体液による生体防御」に関する演習（担当：八木）
グループ③：「神経系」に関する演習（担当：三宅）
グループ④：「遺伝」に関する演習（担当：市田）

第6回

- グループ①：「酵素と呼吸」に関する演習（担当：武智）
グループ②：「生命の起源と進化」に関する演習（担当：八木）
グループ③：「動物の恒常性と調節」に関する演習（担当：三宅）
グループ④：「遺伝子と形質の発現」に関する演習（担当：市田）

第7回

- グループ①：「動物の組織と器官」に関する演習（担当：八木）
グループ②：「刺激の受容」に関する演習（担当：三宅）
グループ③：「生殖と発生」に関する演習（担当：市田）
グループ④：「細胞の構造と機能」に関する演習（担当：武智）

第8回

- グループ①：「体液による生体防御」に関する演習（担当：八木）
グループ②：「神経系」に関する演習（担当：三宅）
グループ③：「遺伝」に関する演習（担当：市田）
グループ④：「細胞を構成する物質」に関する演習（担当：武智）

第9回

- グループ①：「生命の起源と進化」に関する演習（担当：八木）
グループ②：「動物の恒常性と調節」に関する演習（担当：三宅）
グループ③：「遺伝子と形質の発現」に関する演習（担当：市田）
グループ④：「酵素と呼吸」に関する演習（担当：武智）

第10回

- グループ①：「刺激の受容」に関する演習（担当：三宅）
グループ②：「生殖と発生」に関する演習（担当：市田）
グループ③：「細胞の構造と機能」に関する演習（担当：武智）
グループ④：「動物の組織と器官」に関する演習（担当：八木）

第11回

- グループ①：「神経系」に関する演習（担当：三宅）
グループ②：「遺伝」に関する演習（担当：市田）
グループ③：「細胞を構成する物質」に関する演習（担当：武智）
グループ④：「体液による生体防御」に関する演習（担当：八木）

第12回

- グループ①：「動物の恒常性と調節」に関する演習（担当：三宅）
グループ②：「遺伝子と形質の発現」に関する演習（担当：市田）
グループ③：「酵素と呼吸」に関する演習（担当：武智）
グループ④：「生命の起源と進化」に関する演習（担当：八木）

第13回

試験

<到達目標>

試験を通して、授業回数 12回目までの講義内容のポイントを復習する。

科目名：基礎ゼミ

英文名：Seminar for Bases

担当者： 掛樋 一晃・坊木 佳人・秦 多恵子・岩城 正宏・棚田 成紀・市田 成志・松尾 圭造・
岡部 巨雄・三木 康義・村岡 修・池川 繁男・益子 高・杉浦 麗子・西田 升三・川畑 篤史・
武智 昌幸・伊藤 吉将・中村 武夫・桑島 博・松田 秀秋・鈴木 茂生・三宅 義雅・久保 兼信・
伊藤 栄次・田邊 元三・関口 富美子・川崎 直人・石渡 俊二・谷野 公俊・和田 哲幸・
多賀 淳・八木 秀樹・三田村 邦子・北小路 学・八軒 浩子・島倉 知里・西脇 敬二・
木下 充弘・船上 仁範・大床 真美子・安原 智久・喜多 綾子・川瀬 篤史・長井 紀章

単 位：2単位

開講年次：1年次

開講期：前期

区 分：

必修選択の別：必修科目

■授業概要

医療現場において薬剤師に対するニーズが高まっている。しかし薬学の勉強量は膨大であり、かつ科学の進歩や変化に対応して年々新しい知識が加わるため、社会のニーズを満たすためには、自ら問題を見つけ、情報を検索・収集して学び、得た知識を持って自ら問題を解決する能力が必要である。そのため薬学生には、高校までの知識偏重型の受動的な学習から自主的に学習する態度を学び取ることが要求されている。この基礎ゼミではこれらの要求を満たすため、学生を薬学部すべての研究室および薬学専門教育分野に少人数のグループに振り分ける。そこで呈示された、あるいはグループで考えたテーマについて問題を抽出し、解決方法を見出し解決し、結論を見つけ出すとともに、発言、討論を通じて論理的思考力、表現力、批判力を養うことを目的としている。従来の講義形式のように教員が知識を与えるものではない。授業時間は月曜日3限目を予定しているが、図書館、インターネットあるいはフィールドワーク等を駆使して授業外の時間（放課後）に学習することは必須である。

■参考文献

教養、薬学・医学専門を含む書籍全般、インターネットのHP、フィールドワーク

■関連科目

薬学研修

■成績評価基準

出席、自己学習の程度、発言の頻度、発言の内容、レポート等を総合的に判断し評価する。

■授業評価実施方法

実施しない。

■オフィスアワー

担当者にいつでも質問してください。

生涯スポーツ

ビーホス 野主

健康スポーツ教育センターが行う教育について

I、大学における健康スポーツ教育の目的

生涯学習社会における身体運動・スポーツ活動は、各自のライフスタイル形成においても中核的な機能を果たすものとして位置付けることができます。つまり、加速度的に進む高齢化社会のなかで、多くの人々を引き付け、魅了する身体運動・スポーツ活動を「生涯学習」という視点から捉えなおすとき、二つの大きな機能を果たしつつあります。一つは健康の維持・増進・回復という「健康への配慮」、一つは余暇の増大、生活水準の向上、生活意識の変化にともなう文化的な欲求としての「豊かな生きがいの創造」です。

例えば、生涯にわたる身体活動・スポーツ活動が、各自の「健康への配慮」に直接的なかわりを持つことは自明なこととして理解できます。一方、高齢化社会の中でのよりよく生きるための『生きがい感』を「生きる喜びや満足感」、「生活の活力や張り合い」、「自分の可能性の実現」、「他人や社会に役立つ」などと捉えるとするならば、身体運動・スポーツが、各自の生きがい感を充実させ、より「豊かな生きがいの創造」に大きく貢献することは容易に想像することができます。

このような視点に立ち、健康スポーツ教育センターでは、一時的な大学における教育という枠を取り払い、生涯における個人に対する健康・スポーツ教育のサポートシステムを構築しようとしています。それは、「生涯健康管理システム」として、大学における健康スポーツ教育の中核的なシステムとして位置付けています。

大学における生涯スポーツ教育の目標は、「自己のライフステージや心身の状態に適した身体運動やスポーツを生活の中に積極的に取り入れ、人々との交流を通じて、豊かなライフスタイルを形成できる能力を身に付けること」です。

すなわち、生涯にわたる身体運動・スポーツ活動を通じてすべての人々が豊かに生き生きと生きることと、自己を表現できることを目標としたものであり、各自がライフステージに対応した自己開発や自己表現がなされること、そして身体運動・スポーツをすることが自己目的化されることを教育の目標としています。

そのために、健康スポーツ教育の目標を以下のように焦点付けました。

1. 生涯にわたる健康管理や、健康・体力の維持・増進・回復を図るための素養を高める。
2. 身体運動・スポーツ実践の中で、「新しい動きの体験」を享受することにより、運動する喜びとともに共生する喜びを体得する。
3. 身体運動・スポーツに関する科学的「知」を動くことによって実感し、探求する。
4. 身体運動・スポーツすることによって得られる集約的な身体の「知」を体得し、生涯スポーツ活動の素養を養う。

II、正課授業について

正課授業とは、以下の通りです。

- 1) 健康とスポーツの科学（講義 半期）2単位
- 2) 生涯スポーツ1（実技 前期）1単位
- 3) 生涯スポーツ2（実技 後期）1単位
- 4) 健康スポーツ科学（実技・実習・講義・旧カリキュラム 4年）2単位

1) 健康とスポーツの科学（講義）※理工学部のみ開講

今日の学生が持つ多様なニーズに応えるための試みとして、「生涯学習」の視点から「健康とスポーツの科学」を講義します。

- (1) スポーツ科学の基礎知識
- (2) 健康科学の基礎から応用
- (3) 健康の自己管理論

2) 生涯スポーツ1・2（実技・実習）※開講（1～4年）

生涯スポーツ実習は、講義として連鎖しつつスポーツに関する基礎から応用まで専門的知識の習得を目指すものです。

- (1) プレー・レジャー（コミュニケーション）としてのスポーツ
- (2) 健康づくりとしてのスポーツ
- (3) 身体能力開発としてのスポーツ として展開します。

生涯スポーツ1は「基礎的」、生涯スポーツ2は「応用的」な視点で実施されます。

生涯スポーツ1および生涯スポーツ2の授業内容

授業目的：生涯スポーツ1および生涯スポーツ2の授業は、実技を中心とした実践科目です。したがって、雨などによりやむをえない場合やVTRなどの視聴覚機器を利用して授業を行う場合以外は、グラウンドや体育館で実施されます。両科目ともスポーツ・運動教材を用い、体力・運動能力の実質的向上あるいはその方法、健康の意義とその保持・増進の方法などを習得することを目標としています。ただし、生涯スポーツ2は、生涯スポーツ1と比較して、より深い知識の習得とやや専門的な体力・運動能力の習得を目指しています。

授業内容：生涯スポーツ1および生涯スポーツ2の授業は、一つの時限に複数の担当者が、それぞれ異なった運動教材と異なった授業の展開を行い、実習種目として以下のものを用意しております。

バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球・硬式テニス・サッカー・フットサル・ソフトボール・ゴルフ・格技・ウォーキング・軽スポーツ（フライングディスク・ゲートボール他）

Ⅲ、成績評価について

身体的課題の達成度—身体活動量、技術・技能、戦術・戦略 50%

心理・社会的課題の達成度—努力・意欲、コミュニケーション、マナー・礼節 50%

なお、担当者により評価の基準が異なることがあります。

Ⅳ、履修登録についての注意

生涯スポーツ1、2の第一回目の授業について

4月の第一回目の授業時に履修要項を持参の上、記念会館に集合し、ガイドブックを配布するので参考にする事。

農学部は4月の第一回目授業時に履修要項を持参の上、203教室へ集合してください。ガイドブックを配布しますので参考にして下さい。

1. ガイダンスにおいて「生涯スポーツ1」、「生涯スポーツ2」の順序で受講科目の選択を行い、履修登録をします。
2. 各種目においては、円滑な授業、安全性の確保のために定員を設けています。
3. そのために選択種目は、第一希望から第三希望まで決めておいて下さい。
4. 特別な理由がない限り、ガイダンス後の受講科目の変更、再申請は認め

ません。

5. 2年生以上の受講生は、同一名称科目の重複は認めていません。
6. 教職過程を希望する学生は、「生涯スポーツ1・2」は必須です。

◎ 履修相談について

健康スポーツ教育センター正課授業に関する履修相談は、以下の日程で行います。

期日：4月11日（月）～4月21日（水）

時間：午前10時～12時・午後1時～3時・4時～6時

場所：11号館1F健康スポーツ教育センター控え室

◎ 農学部の履修相談について

健康スポーツ教育センター正課授業に関する履修そうだんは、以下の日程で行います

期日：4月12日（火）4月15日（金）

時間：ガイダンス終了後

V、履修上の注意

1. 実技・実習は、巻末の地図に示されたスポーツ施設において実施します。
2. 各週の授業場所は、年度始めに担当教員が指示するが、雨天、グラウンド状態不良等の理由により、授業場所を変更する場合があります。この提示は、天候変化などにより不定期に出されるので、各自の授業の直前に掲示板を見て確認をしてください。
3. 実技・実習等の服装はトレーニングウエア及び運動靴を使用する。眼鏡、時計、指輪など、破損しやすい物は、危険防止の見地からも、授業中できるだけ携帯しないこと。万一破損があっても保障できません。外傷などの身体的事故についての注意、万一の場合の処置については「実技・実習上の安全対策」の項を熟読してください。
4. 屋内（記念会館、小体育館、剣道場など）（農学部は203教室）の授業では必ず館内シューズを使用すること。また、グラウンドでは担当教員が認めた運動靴を使用し、テニスコートではテニスシューズを使用すること。
5. 更衣場所については担当教員の指示に従うこと。
6. 授業に関する不明な点は、健康スポーツ教育センター事務室（11号館一階）、第II体育教員控え室（記念会館）、農学部は健康スポーツ教育センター教員控え室（奈良キャンパス）に問い合わせてください。

VI、実技・実習上の安全対策

事故防止について

実技・実習中、避けることのできない不可効力的な事故もありうる。しかし多くの場合、もう少し注意しておけば、あるいはもう少し準備・配慮しておけばといったことがしばしば見受けられる。暴飲暴食、朝食を摂らない、睡眠不足、不規則・不摂生の生活を送っているために、最悪のコンディションで実技・実習に参加し、大きな事故を起こし、自分だけでなく、他の受講生に対しても迷惑をかけることなど、厳に戒めべきことである。これは、実技・実習の履修に際して、最も注意すべきことであり、リズムのある日常生活は、実技・実習で最優先されるべき参加態度といえるものである。実技・実習における安全管理は、日常の生活の自己管理から始まっていると考えて欲しい。このようなことを日常生活の中で自覚し、実技・実習の際に以下の事に注意してください。

1) 服装について

- (1) トレーニングウェアを着用すること。
- (2) 指定された靴を使用すること。
- (3) 時計、指輪等の装飾品を身に付けないこと。
- (4) 爪は切っておくこと。
- (5) 長い髪は適当に束ねること。

2) 用具について

- (1) 使用用具の取り扱い、担当教員の指示に従うこと。
- (2) 各種目の用具の特殊性を熟知し、慎重に取り扱うこと。

3) 活動中について

- (1) 担当教員の指導上の注意、助言を厳守すること。
- (2) 各種目のルール、マナーを厳守すること。
- (3) 感情的にならないこと。
- (4) 心身の不調をきたした場合、すぐに担当教員に申し出ること。

4) 事故の処置について

実技・実習中に万一外傷・その他、授業が継続できないような事故が発生した場合、以下のような要領で処置をします。

(1) 事故発生時

担当教員に申し出て指示を受けること。原則として次のように処置をします。

- a) 大学保険管理室（11月ホール3階）、または農学部医務室（まほろば館1階）で処置を受ける
- b) 学外の医療機関で治療した場合は、近畿大学学園学生健保共済会から医

療費の給付を受けることができます。

この手続きは、担当教員が作成する「正課中・正課外事故証明書」を「医療費給付申請書」（入院外と入院の二種類がある）に添付して、学生部厚生課または農学部教務学生課に提出すること。

（詳細は、近畿大学学園学生健保共済会発行「WELLNESS ハンドブック」を参照のこと）

VII、保健管理室について

保険管理室では、以下の業務を行っています。

自己の健康管理のためにも、一人でも多く利用されることをお勧めします。

- 1) 応急手当
- 2) 健康相談（本学医学部付属病院の医師が担当しています。）
- 3) 精神衛生相談（カウンセリング）
- 4) 健康診断証明書発行（詳しくは「保険管理室案内」を参照してください）

科目名：生涯スポーツ1				
英文名：Lifelong Sports 1				
担当者：ガイドブックに記載				
単 位：1単位	開講年次：1～4年次	開講期：前期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

実習種目 バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球・硬式テニス・サッカー・フットサル・ソフトボール・ゴルフ・格技・ウオーキング・軽スポーツ（フライングディスク・ゲートボール他）

■学習・教育目標および到達目標

健康の維持・増進・体力・運動能力の向上とその意義についての基礎的理解及び各種スポーツの基本的運動技術・技能・ルールの理解

■教科書

担当教員が授業中に指示します

■参考文献

担当教員が授業中に指示します

■試験方法

随時授業中に行いますが、最終日には総合テストを実施します

■成績評価基準

身体的課題の達成度－身体活動、技術・技能、戦術・戦略50%
心理・社会的課題の達成度－努力・意欲、コミュニケーション、マナー・礼節50%

■授業評価実施方法

担当教員が授業中に指示します

■研究室・E-mailアドレス

健康スポーツ教育センター <ihss@msa.kindai.ac.jp >

■オフィスアワー

専任教員はガイドブックにて明示・非常勤講師の先生方は授業終了後に相談すること

■授業計画の項目・内容及び到達目標

生涯スポーツ1は、実技を中心とした実習科目です。フィットネス・チェックを受け、自己の体力を知り実践する中で、健康の維持・増進・体力・運動能力の向上とその意義を「基礎的な」視点で実習、習得します

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ガイダンス・第1回目の授業は記念会館へ集合し、配布されたガイドブックを参考に種目・担当者を決定しますが、生涯スポーツ1では半期間2種目を開講します。人数の多少により実施できない種目も起こりうるため、第1希望～第3希望の種目を考えておくこと。又、決定後履修用紙に必要事項を記入し、期限内に履修登録をしなければなりません。なお、生涯スポーツ2も同時に登録を行います

第2回 フィットネス・チェック（形態測定、安静時心拍数、血圧、筋力）

第3回 フィットネス・チェック（筋持久力、柔軟性、敏捷性、全身持久力）

第4回 フィットネス・チェックの評価と各種スポーツの種目特性と、その健康・体力への期待される効果

第5回 生涯にわたる運動・スポーツの実施と健康寿命の延伸

第6回 各種スポーツの運動技能・技術の習得

第7回 各種スポーツのトレーニング方法の習得

第8回 各種スポーツのルールと審判法の習得

第9回 実技テスト

第10回 各種スポーツの種目特性とその健康・体力への期待される効果

第11回 生涯にわたる運動・スポーツの実施と健康寿命の延伸

- 第12回 各種スポーツの運動技能・技術の習得
- 第13回 各種スポーツのトレーニング方法の習得
- 第14回 各種スポーツのルールと審判法の習得
- 第15回 実技テスト

科目名：生涯スポーツ2				
英文名：Lifelong Sports 2				
担当者：ガイドブックに記載				
単 位：1単位	開講年次：1～4年次	開講期：後期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

実習種目 バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球・硬式テニス・サッカー・フットサル・ソフトボール・ゴルフ・格技・軽スポーツ（フライングディスク・ゲートボール他）

■学習・教育目標および到達目標

健康や身体に関する深い知識の獲得及び各種スポーツの専門的な運動技術・技能の獲得

■教科書

担当教員が授業中に指示します

■参考文献

担当教員が授業中に指示します

■試験方法

各担当者が随時授業中に行います、

■成績評価基準

身体的課題の達成度－身体活動量、技術・技能、戦術・戦略50%
 心理・社会的課題の達成度－努力・意欲、コミュニケーション・マナー、礼節50% なお、担当者により評価の基準が異なります

■授業評価実施方法

担当教員が授業中に指示します

■研究室・E-mailアドレス

健康スポーツ教育センター<ihss@msa.kindai.ac.jp>

■オフィスアワー

専任教員はガイドブックにて明示・非常勤講師の先生方は授業終了後に相談すること

■授業計画の項目・内容及び到達目標

フィットネスチェックを受け自己の体力を把握し、実践していく中で、健康の維持・増進・体力・運動能力の向上とその意義を「基本的な」視点で実習・習得します

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 生涯スポーツ2は半期間通して同一種目で行われます・生涯スポーツ1と比較し「応用的」視点で実施し健康や身体に関するより深い知識獲得及び各種スポーツに関する専門的な技術・技能の習得を目指します。(雨天時・グラウンド状態が悪い場合は場所の移動があるので掲示板の指示に従うこと)フィットネスチェック(形態測定・安静時心拍数・血圧・筋力)が行われます

第2回 フィットネス・チェック (筋持久力、柔軟性、敏捷性、全身持久力)測定後次週からの実習種目・場所の確認が行われる

第3回 フィットネス・チェックの評価とそれに基づく運動プログラムの考案

第4回 各種スポーツの種目特性とその健康・体力への期待される効果

第5回 各種スポーツの種目特性とその心理的社会的効果

第6回 生涯にわたる運動・スポーツの実施と健康寿命の延伸

第7回 生涯にわたる運動・スポーツへの参加とQOL

第8回 各種スポーツの運動技能・技術の習得

第9回 各種スポーツの競技戦術・戦略の習得

第10回 各種スポーツのトレーニング方法の習得

- 第11回 各種スポーツのルールと審判法の習得
- 第12回 一流競技選手の体力・運動技能・戦術（VTR等使用）
- 第13回 運動・スポーツに発生しがちな事故と救急処置
- 第14回 生涯にわたる健康管理や、健康・体力の維持・増進・回復
- 第15回 実技テスト

外国語科目

(英語)

英語履修案内

英語学習の意義と指導目標

国際化、情報化が急速に進展する今日、英語がますます重要なものになってきていることは言うまでもない。例えば、現在、世界的に見ると、インターネット、Eメールなどの約90%が英語で行われており、それも今後は95%以上になると見積もられている。国際語としての英語を使いこなせるようになるためには、世界の国々の文化的多様性や普遍性を学ぶことで他民族の心を理解し、グローバルな視野を持つことによって真の実践的コミュニケーション能力を高めることが必要である。

語学教育部では、このような視点から、学生が21世紀の国際舞台で活躍できるような英語力を身につけることを目指し、次のような指導目標を設定している。

第一に、今日の情報化時代に対応し、さまざまな情報を正確かつ迅速に読み取り、読み取った情報を処理する能力を養う。「英語を学ぶ」という段階から「英語で学ぶ」という段階へ、脱皮が必要である。

第二に、今日の国際化時代に対応し、情報を伝達したり、自分の意見や気持ちを表現したりすることができる発信型コミュニケーション能力を養う。「英語を学ぶ」ことから「英語を使う」ことへ、発想を転換することが必要である。

第三に、今日の国際社会の中で留学をしたり、仕事をしたりするのに必要な英語力の習得を目指し、文化理解と文化発信の手段としての「上級の英語力」を育成する。

第四に、TOEICなどの英語能力試験において、高い得点を得ることができる実用的な英語力を身につける。

最後に、各学部の特性を配慮し、英語で書かれた「専門の文献を読む力」を向上させる。併せて、英語と日本語の発想の違いを理解したり、随筆や文学作品を「じっくり味わう力」を身につける。

語学教育部では以上のような技術や能力を養成するために、英語コミュニケーション、オーラルコミュニケーション、イングリッシュ・カルチャーセミナーなどの英語科目を開講している。英語科目はグレード制を採用しており、習熟度に応じた科目を受講することになっている。

英語科目

科 目	配当 学年	単位	学期	備 考
英語コミュニケーション 1	1	2	前	
英語コミュニケーション 2	1	2	後	
英語コミュニケーション 1(再)	2	2	前	1年次に、英語コミュニケーション1・2・3・4を取得できなかった2年生を対象とする。履修を希望する場合は、事前に薬学部教務課まで申し出ること。
英語コミュニケーション 2(再)	2	2	後	
英語コミュニケーション 3	1	2	前	
英語コミュニケーション 4	1	2	後	
英語コミュニケーション 5	2	1	前	
英語コミュニケーション 6	2	1	後	
英語コミュニケーション 5(再)	2	1	前	
英語コミュニケーション 6(再)	2	1	後	
英語コミュニケーション 7	2	1	前	
英語コミュニケーション 8	2	1	後	
英語コミュニケーション 9	2	1	前	
英語コミュニケーション 10	2	1	後	
オーラルコミュニケーション 1	1	1	前	
オーラルコミュニケーション 2	1	1	後	
オーラルコミュニケーション 1(再)	2	1	前	
オーラルコミュニケーション 2(再)	2	1	後	
オーラルコミュニケーション 3	2	1	前	受講するにはオーラルコミュニケーション1・2のいずれか単位を取得していることが必要
オーラルコミュニケーション 4	2	1	後	
オーラルコミュニケーション 3(再)	2	1	前	受講するにはオーラルコミュニケーション1・2のいずれか単位を取得していることが必要
オーラルコミュニケーション 4(再)	2	1	後	
オーラルコミュニケーション 5	3	1	前	受講するにはオーラルコミュニケーション3・4のいずれか単位を取得していることが必要
オーラルコミュニケーション 6	3	1	後	
イングリッシュカルチャーセミナー1	3	1		

2単位は週2回の授業、1単位は週1回の授業を示す

英語科目概要

英語コミュニケーション1 前期

速読能力の向上と基礎語彙力の養成を目的とする。内容理解に重点を置き、文の構造、文法、パラグラフの構成など、読みに必要な事項を確認しながら、英文の概要、要点を速く的確に読みとる力をつけていく。併せて基本的なリスニング練習を行い、リスニング能力の向上を図る。これらの訓練により TOEIC に対応できる基礎力を養う。

英語コミュニケーション2 後期

この科目は、英語コミュニケーション1の内容をやや高度にしたもので、読解力と語彙力を強化し、併せて一層進んだリスニング力を身につけることを目標とする。

英語コミュニケーション1 (再) 前期

英語を基礎から学ぶ学生を対象に、英語の4技能の基礎力を向上させることを目標とする。基礎文法の確認、初歩的なリスニングや発音練習を行い、これまでの英語学習で欠けているところを補う。

英語コミュニケーション2 (再) 後期

この科目は基礎英語1の内容の上に、英語の総合的な基礎力をより確実なものにすることを目標とする。

英語コミュニケーション3 前期

新聞や雑誌の英語、広告、ビジネス・レターなどの語彙を習得し、要点をすばやく読みとる速読力の向上を図る。また、比較的平易なオフィスでの英語を聞き取る訓練を行う。

英語コミュニケーション4 後期

この科目は英語コミュニケーション3の内容をやや高度にしたもので、オフィスでの英語をパラグラフリーディングしたりトピックを要約したりする能力を養う。また、やや高度なリスニングの訓練を行う。

英語コミュニケーション5 前期

専門分野の文献を読む基礎的な能力を養成する。内容は、原則として各学部に対応したものとし、人文系は文学、言語、比較文化など、社会系はビジネス、政治など、自然系は科学技術、環境問題などを題材とする。言葉の意味、文の構造、パラグラフの構成などを分析しながら、内容を理解することに焦点を当て、読解力と語彙力を強化することを目標とする。

英語コミュニケーション6 後期

この科目は英語コミュニケーション5の内容をやや高度にしたもので、読解力と語彙力を強化し、一層進んだ英語力を身につけることを目標とする。

英語コミュニケーション7 前期

TV、ラジオのニュース・映画の英語のリスニング能力と自己表現力の向上を目標とする。TV、ラジオのニュース・映画の英語の語彙習得後、聞こえにくい音、音の連結、ストレスなどの確認を行う。またニュースの内容について英語で概要・要点をまとめること、自分の意見や感想をまとめることを学ぶ。

英語コミュニケーション8 後期

この科目は英語コミュニケーション7の内容をやや高度にしたもので、さらに進んだTV、ラジオのニュースや映画の英語のリスニング能力と自己表現力の向上を目指す。

英語コミュニケーション9 前期

上級レベルの英語力を養う。英語圏へ留学をしたり、英語を使って仕事をしたりするのに必要な英語力を養成することを目標とする。エッセイや記事などを読んだり、ニュースやスピーチを聞いたりして、概要・要点をまとめ、自分の意見や感想を英語で述べる訓練をする。

英語コミュニケーション10 後期

この科目は英語コミュニケーション9の内容をやや高度にしたもので、さらに上級の英語力を身につけることを目標とする。

オーラルコミュニケーション1 前期

日常会話に必要な基礎的語彙を増やすと共に、その語法に習熟させることを目標とする。その上で、場面（挨拶、自己紹介、電話、買物、レストランでの注文、道案内、予約など）や機能（許可、依頼、提案など）に応じた会話力の向上を目指す。

オーラルコミュニケーション2 後期

この科目はオーラルコミュニケーション1の内容の上に、初歩的な日常会話力のさらなる向上を目指す。

オーラルコミュニケーション1（再）前期

日常会話に必要な基礎的語彙を増やすと共に、その語法に習熟させることを目標とする。その上で、場面（挨拶、自己紹介、電話、買物、レストランでの注文、道案内、予約など）や機能（許可、依頼、提案など）に応じた会話力の向上を目指す。

オーラルコミュニケーション2（再）後期

この科目はオーラルコミュニケーション1の内容の上に、初歩的な日常会話力のさらなる向上を目指す。

オーラルコミュニケーション3 前期

（この科目の受講はオーラルコミュニケーション1・2の単位を取得していることが必要）

場所、人、物や何かのプロセスについて説明したり、簡単なスキットを創作したり発表したりして、基礎的な会話表現力を身につけることを目標とする。

オーラルコミュニケーション4 後期

この科目は、オーラルコミュニケーション3の内容の上に、思い出、物語などのナレーション、比較・対照、原因・結果などの表現を含んだ、さまざまな場面での会話表現力の向上を目指す。

オーラルコミュニケーション5 前期

（この科目の受講はオーラルコミュニケーション3・4の単位を取得していることが必要）

身近なトピックについて聞いたり、読んだりしたことを説明したり、自分の意見や感想を少し付け加えて発表したり、簡単なディスカッションをしたりして、会話表現力を身につけることを目標とする。

オーラルコミュニケーション6 後期

この科目は、オーラルコミュニケーション5の内容の上に、簡単なスピーチやディベートをして、一層進んだ会話表現力を身につけることを目指す。

イングリッシュカルチャーセミナー1 前期

英語圏の国の文化を通して英語をゼミ形式で学ぶ。英語を読み、課題について自分なりに解決して、議論したり、発表したりすることによって、英語という言語に対する理解力を深め、グローバルな視野と課題解決能力を身につける。

英語科目履修案内

英語科目は、卒業までに**最低8単位履修**することが必要です。各自の目的や能力に合わせて、履修モデルを参考に履修計画を立ててください。

1. 8 単位履修モデル

(A) 大学生として必要な英語力を養う。

2. 10 単位履修モデル

(B) リスニングとスピーキングの力を強化する。

(C) リーディングとリスニングの力を強化する。

3. 12 単位履修モデル

(D) ノン・ネイティブとして十分なコミュニケーション能力をつける。

(E) 特に口頭によるコミュニケーション能力を強化する。

(F) 英語だけでなく英語圏の文化も学ぶ。

履修モデル	1年	2年	3年	4年
8 単位	英語コミュニケーション1・2 2つのうち 英語コミュニケーション3・4 から1つ オーラルコミュニケーション1・2	(A) 英語コミュニケーション5・6		
10 単位	英語コミュニケーション1・2 2つのうち 英語コミュニケーション3・4 から1つ オーラルコミュニケーション1・2	(B) 英語コミュニケーション5・6 オーラルコミュニケーション3・4		
		(C) 英語コミュニケーション5・6 英語コミュニケーション7・8		
12 単位	英語コミュニケーション1・2 2つのうち 英語コミュニケーション3・4 から1つ オーラルコミュニケーション1・2	(D) 英語コミュニケーション5・6 英語コミュニケーション7・8 英語コミュニケーション9・10		
		(E) 英語コミュニケーション5・6 オーラルコミュニケーション3・4 オーラルコミュニケーション5・6		
		(F) 英語コミュニケーション5・6 オーラルコミュニケーション3・4 イングリッシュカルチャセミナー1		

① 〈履修登録の時期は〉

すべての英語科目は、前期も後期も4月に履修登録します。

② 〈前期科目が不合格になったら〉

前期科目の単位が取れなくても、後期科目は履修できます。

③ 〈前期科目は合格、後期科目は不合格になったら〉

前期科目の単位が取れていれば、上位科目を履修できます。

④ 〈前期科目は不合格、後期科目は合格になったら〉

後期科目の単位が取れていれば、上位科目を履修できます。

⑤ 〈前期科目も後期科目も不合格になったら〉

上位科目の履修はできません。再履修してください。

☆検定試験等による単位認定について☆

次のスコア(級)をとれば、該当科目を100点で成績評価する	
TOEIC470点～545点	→2単位 (英語コミュニケーション5・6の単位として認定)
TOEIC550点～625点/TOEFL173(500)点～212(549)点	→4単位 (英語コミュニケーション5・6・7・8の単位として認定)
TOEIC630点以上/英検準1級/TOEFL213(550)点以上	→6単位 (英語コミュニケーション5・6・7・8・9・10の単位として認定)
海外英語研修	→2単位 (留学英語1・2の単位として認定)

*TOEFLの得点は先にコンピューター受験、()内にペーパー受験の基準を示しています。

1. 2年次配当科目「英語コミュニケーション」はTOEIC/英検/TOEFLで単位認定(1)TOEIC470点～545点を取得すれば、「英語コミュニケーション5・6」(2単位)を100点で認定する。
 (2)TOEIC550点～625点/TOEFL173(500)点～212(549)点を取得すれば、「英語コミュニケーション5・6」「英語コミュニケーション7・8」(計4単位)を100点で認定する。
 (3)TOEIC630点以上/英検準1級/TOEFL213(550)点以上を取得すれば、「英語コミュニケーション5・6」「英語コミュニケーション7・8」「英語コミュニケーション9・10」(計6単位)を100点で認定する。
 ※2年次の前期に所定のスコアを取得した場合は、前期・後期とも100点で認定する。後期に所定のスコアを取得した場合は、前期の単位を取得していない場合に限り、前期・後期とも100点で認定する。すでに前期の単位を取得していれば後期のみ100点で認定する。
 ※単位認定は、学生本人が申請した場合に限る。

2. 単位認定の申請について

TOEIC/英検/TOEFLで所定のスコア(級)を取得した場合は、下記の期間にスコア原本・学生証を持参の上、学務部(10号館1階)に申請すること。

※申請有効期間は所定のスコア(級)取得後1年間とする。

2年～4年	前期	平成17年7月19日～9月2日
	後期	平成18年2月1日～2月10日

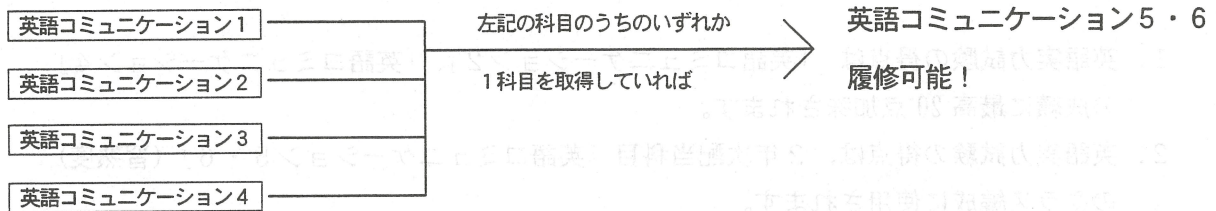
☆英語実力試験 / TOEIC について☆

本学では、「英語コミュニケーション2」、「英語コミュニケーション4」を受講している1年生全員を対象として、平成17年11月上旬（予定）に英語実力試験を授業時間内で実施します。英語実力試験は、マークシート方式で、TOEICの形式です。

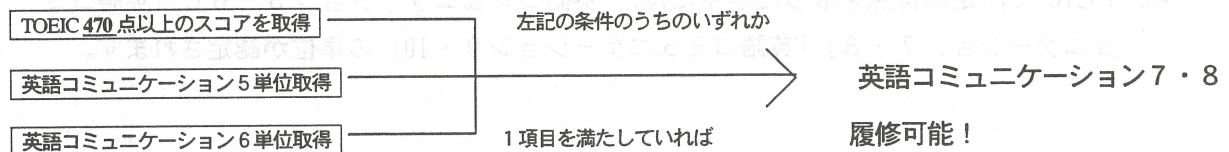
1. 英語実力試験の得点は、「英語コミュニケーション2」、「英語コミュニケーション4」の成績に最高20点加味されます。
2. 英語実力試験の得点は、2年次配当科目「英語コミュニケーション5・6」（習熟度）のクラス編成に使用されます。
3. 英語実力試験で一定の得点を取った学生は、平成17年12月下旬に実施する学内TOEIC（受験料は大学負担）を受験できます。
4. TOEICで所定の得点を取った学生には、「英語コミュニケーション5・6」、「英語コミュニケーション7・8」「英語コミュニケーション9・10」の単位が認定されます。

外国語科目（英語）の履修制限

英語コミュニケーション5・6の履修条件

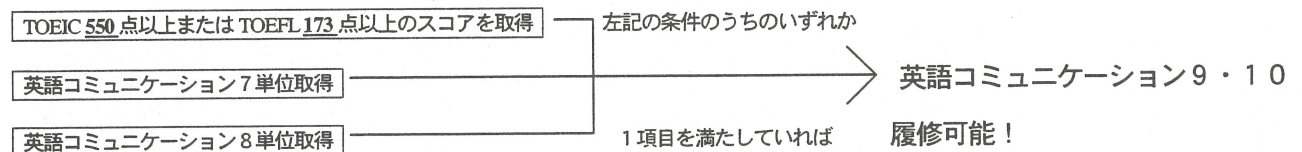


英語コミュニケーション7・8の履修条件



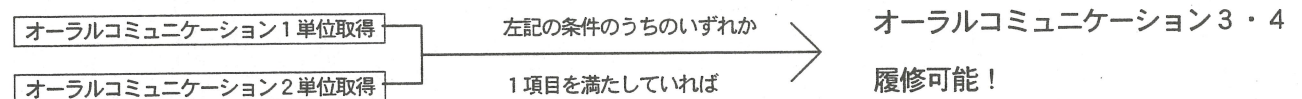
* TOEIC スコアによる単位認定には所定の手続きが必要です。手続きを行わなければ履修条件も満たすことができません。

英語コミュニケーション9・10の履修条件

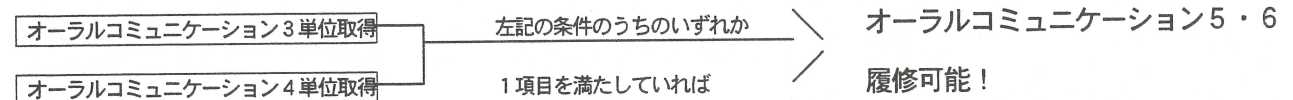


* TOEIC・TOEFL スコアによる単位認定には所定の手続きが必要です。手続きを行わなければ履修条件も満たすことができません。

オーラルコミュニケーション3・4の履修条件



オーラルコミュニケーション5・6の履修条件



＜再履修について＞

オーラルコミュニケーション1未修得	オーラルコミュニケーション1を再履修する。
オーラルコミュニケーション2未修得	オーラルコミュニケーション2を再履修する。
オーラルコミュニケーション3未修得	オーラルコミュニケーション3を再履修する。
オーラルコミュニケーション4未修得	オーラルコミュニケーション4を再履修する。

科目名：英語コミュニケーション1				
英文名：English Communication 1				
担当者： ^{テツイ} 鉄井 ^{タカシ} 孝司・ ^{ミカミ} 三上 ^{アキヒロ} 明洋・ ^{タブチ} 田渕 ^{ヨシヒロ} 義博				
単位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	区分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

TOEICで高得点を目指す。出題傾向と各パートの特徴を学びつつ、段階的にTOEICの対策を行なう。練習問題を数多くこなしていくことで問題形式に慣れ、同時に基本的な単語や熟語の定着を図る。

■学習・教育目標および到達目標

- ・平易な日常会話を十分に理解できる。
- ・音読上の規則を理解し、10語前後からなる会話ができる。場面に応じた表現を使うことができる。
- ・比較的平易な英文を一定の速度で読むことができ、要点を理解することができる。
- ・自己の意見や読んだ英文の要約を単文・複文を用いて表現できる。
- ・基本的な文法事項を理解し、2500語程度の語彙を理解できる。
- ・TOEICスコア380～410点を目指す。

■教科書

Active TOEIC Test、近畿大学語学教育部教材開発研究会編、成美堂
Word Builder、近畿大学語学教育部教材開発研究会編、南雲堂

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験（50%）、小テスト（20%）、口頭発表及び課題（30%）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1回 Chapter 1 TOEICの基礎演習 Section 1
- 第2回 前回と同じ
- 第3回 Chapter 1 TOEICの基礎演習 Section 2
- 第4回 前回と同じ
- 第5回 Chapter 1 TOEICの基礎演習 Section 3
- 第6回 前回と同じ
- 第7回 Chapter 2 TOEICのPart別対策 Section 1
- 第8回 前回と同じ
- 第9回 Chapter 2 TOEICのPart別対策 Section 2
- 第10回 前回と同じ
- 第11回 Chapter 2 TOEICのPart別対策 Section 3
- 第12回 前回と同じ
- 第13回 Chapter 2 TOEICのPart別対策 Section 4
- 第14回 前回と同じ
- 第15回 Chapter 2 TOEICのPart別対策 Section 5
- 第16回 前回と同じ
- 第17回 Chapter 2 TOEICのPart別対策 Section 6
- 第18回 前回と同じ
- 第19回 Chapter 2 TOEICのPart別対策 Section 7

- 第20回 前回と同じ
- 第21回 Chapter 3 TOEIC実践問題 Section 1
- 第22回 前回と同じ
- 第23回 Chapter 3 TOEIC実践問題 Section 2
- 第24回 前回と同じ
- 第25回 Chapter 3 TOEIC実践問題 Section 3
- 第26回 前回と同じ
- 第27回 Chapter 3 TOEIC実践問題 Section 4
- 第28回 前回と同じ
- 第29回 Chapter 4 TOEICの総仕上げ
- 第30回 定期試験

科目名：英語コミュニケーション2				
英文名：English Communication 2				
担当者： ^{テツイ タカシ} 鉄井 孝司				
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

英語の仕組みを理解し、英文を確実に読みこなすことを目的とする。各ユニットでは、今日的な話題を扱った250語程度の英文を読み、語彙力のアップと会話表現の習得に努める。さらに演習問題を通じて、重要な文法項目の定着と実際のコミュニケーションの場面で活かせるリスニング能力の育成を図る。

■学習・教育目標および到達目標

- ・平易な日常会話を十分に理解できる。
- ・音読上の規則を理解し、10語前後からなる会話ができる。場面に応じた表現を使うことができる。
- ・比較的平易な英文を一定の速度で読むことができ、要点を理解することができる。
- ・自己の意見や読んだ英文の要約を単文・複文を用いて表現できる。
- ・基本的な文法事項を理解し、2500語程度の語彙を理解できる。
- ・TOEICスコア380～410点を旨す。

■教科書

A Complete College English Program Book 1、土屋武久他、金星堂

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験（50%）、小テスト（20%）、口頭発表及び課題（30%）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Unit 1 Gun Control

Reading

第2回 Unit 1 続き

主語と動詞の単複一致

第3回 Unit 2 Say Hi to Hybrids

Reading

第4回 Unit 2 続き

冠詞 (a/an the) 名詞のカンムリ

第5回 Unit 3 Skyscrapers

Reading

第6回 Unit 3 続き

加算・不加算名詞「数えられる・数えられない名詞」

第7回 Unit 4 Virtual Reality

Reading

第8回 Unit 4 続き

動名詞・不定詞

第9回 Unit 5 The Egyptian Pyramids

Reading

第10回 Unit 5 続き

現在形と過去形

第11回 Unit 6 21st-Century Addictions

Reading

第12回 Unit 6 続き

時制（現在形と現在完了形）

第13回 Unit 7 Academy Awards

Reading

第14回 Unit 7 続き

受動態

第15回 Unit 8 California, Here I Come!

Reading

第16回 Unit 8 続き

後置修飾

第17回 Unit 9 Anyone for a Cup of Tea?

Reading

第18回 Unit 9 続き

比較

第19回 Unit 10 Sushi

Reading

第20回 Unit 10 続き

関係代名詞

第21回 Unit 11 Living in a Ubiquitous Society

Reading

第22回 Unit 11 続き

接続詞 (1) 語句や文をくっつける〈接着剤〉

第23回 Unit 12 The "Freeter" Phenomenon

Reading

第24回 Unit 12 続き

接続詞 (2) 「主役」と「脇役」を結ぶ接続詞

第25回 Unit 13 The Computer Revolution

Reading

第26回 Unit 13 続き

仮定法

第27回 Unit 14 Stride toward Freedom

Reading

第28回 Unit 14 続き

分詞構文 (現在分詞～ing によるもの)

第29回 Unit 15 How Do You Like Louis Vuitton?

Reading

過去分詞 (-ed など) による分詞構文

第30回 定期試験

科目名：英語コミュニケーション2				
英文名：English Communication 2				
担当者： ^{ミカミ} 三上 ^{アキヒロ} 明洋・ ^{タブチ} 田渕 ^{ヨシヒロ} 義博				
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

様々なトピックの平易な英文を読み、要点を速く、正確に読み取る練習をした後、その内容を、聴き取る練習を行うことによって、リーディングおよびリスニングの力の習得を目指す。また、簡単なライティングの指導もあわせて行う。

■学習・教育目標および到達目標

- ・平易な日常会話を十分に理解できる。
- ・音読上の規則を理解し、10語前後からなる会話ができる。場面に応じた表現を使うことができる。
- ・比較的平易な英文を一定の速度で読むことができ、要点を理解することができる。
- ・自己の意見や読んだ英文の要約を単文・複文を用いて表現できる。
- ・基本的な文法事項を理解し、2500語程度の語彙を理解できる。
- ・TOEICスコア380～410点を目指す。

■教科書

Polish Up Your English / 成美堂

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1回 Chapter 1: Music: The Beatles
- 第2回 Chapter 1 続き
- 第3回 Chapter 2: Global Warming
- 第4回 Chapter 2 続き
- 第5回 Chapter 3: Communication
- 第6回 Chapter 3 続き
- 第7回 Chapter 4: Water
- 第8回 Chapter 4 続き
- 第9回 Chapter 5: Alternative Energy
- 第10回 Chapter 5 続き
- 第11回 Chapter 6: Paper
- 第12回 Chapter 6 続き
- 第13回 Chapter 7: Ecotourism
- 第14回 Chapter 7 続き
- 第15回 Chapter 8: Smoking
- 第16回 Chapter 8 続き
- 第17回 Chapter 9: Ecology: Wolves in Yellowstone Park
- 第18回 Chapter 10: Discovery: The Sea Route to India
- 第19回 Chapter 11: Latitude and Longitude

- 第20回 Chapter 12: Overfishing
- 第21回 Chapter 13: Time
- 第22回 Chapter 14: Vikings
- 第23回 Chapter 15: New Zealand
- 第24回 Chapter 16: The Industrial Revolution
- 第25回 Chapter 17: Language
- 第26回 Chapter 18: Religion
- 第27回 Chapter 19: Volcanoes
- 第28回 Chapter 20: Rainforests
- 第29回 復習
- 第30回 定期試験

科目名：英語コミュニケーション3				
英文名：English Communication 3				
担当者：藤岡 真由美・村島 佳子				
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：前期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

TOEICで高得点を目指す。出題傾向と各パートの特徴を学びつつ、段階的にTOEICの対策を行なう。練習問題を数多くこなしていくことで問題形式に慣れ、同時に基本的な単語や熟語の定着を図る。

■学習・教育目標および到達目標

- ・日常会話を十分に理解できる。
- ・音読上の規則を理解し、一定の速度で音読できる。様々な場面での日常会話を伝達機能を理解した上で使いこなせる。
- ・比較的平易な英文をかなり速く読むことができ、その要点を的確に把握することができる。
- ・自己の意見や読んだ英文の要約を一つの段落にまとめることができる。
- ・文法事項を網羅的に理解し、3000語程度の語彙を理解できる。
- ・TOEICスコア440～470点を目指す。

■教科書

Active TOEIC Test、近畿大学語学教育部教材開発研究会編、成美堂
Word Builder、近畿大学語学教育部教材開発研究会編、南雲堂

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験（50%）、小テスト（20%）、口頭発表及び課題（30%）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1回 Chapter 1 TOEICの基礎演習 Section 1
- 第2回 前回と同じ
- 第3回 Chapter 1 TOEICの基礎演習 Section 2
- 第4回 前回と同じ
- 第5回 Chapter 1 TOEICの基礎演習 Section 3
- 第6回 前回と同じ
- 第7回 Chapter 2 TOEICのPart別対策 Section 1
- 第8回 前回と同じ
- 第9回 Chapter 2 TOEICのPart別対策 Section 2
- 第10回 前回と同じ
- 第11回 Chapter 2 TOEICのPart別対策 Section 3
- 第12回 前回と同じ
- 第13回 Chapter 2 TOEICのPart別対策 Section 4
- 第14回 前回と同じ
- 第15回 Chapter 2 TOEICのPart別対策 Section 5
- 第16回 前回と同じ
- 第17回 Chapter 2 TOEICのPart別対策 Section 6
- 第18回 前回と同じ
- 第19回 Chapter 2 TOEICのPart別対策 Section 7

- 第20回 前回と同じ
- 第21回 Chapter 3 TOEIC実践問題 Section 1
- 第22回 前回と同じ
- 第23回 Chapter 3 TOEIC実践問題 Section 2
- 第24回 前回と同じ
- 第25回 Chapter 3 TOEIC実践問題 Section 3
- 第26回 前回と同じ
- 第27回 Chapter 3 TOEIC実践問題 Section 4
- 第28回 前回と同じ
- 第29回 Chapter 4 TOEICの総仕上げ
- 第30回 定期試験

科目名：英語コミュニケーション4				
英文名：English Communication 4				
担当者： ^{ムラシマ ヨシコ} 村島 佳子				
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：前期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

各章のテキストは、日本経済をリードする12の企業について、その創業の理念や哲学を述べた600語程度の英文である。従って情報を正確に把握する読解力の養成が目的となるが、練習問題を通じて、実社会で通用する語彙力の基礎を培うとともに、リスニング能力やライティング能力の育成を図る。

■学習・教育目標および到達目標

- ・平易な日常会話を十分に理解できる。
- ・音読上の規則を理解し、10語前後からなる会話ができる。場面に応じた表現を使うことができる。
- ・比較的平易な英文を一定の速度で読むことができ、要点を理解することができる。

■教科書

Leading Companies in the 21st Century、Alan Cogen他、松柏社

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験（50%）、小テスト（20%）、口頭発表及び課題（30%）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Chapter 1 Kagome: A Healthy Way to Success

第2回 第1回と同じ

第3回 Chapter 2 Matsushita: Compassion and Ingenuity

第4回 第3回と同じ

第5回 Chapter1～2の復習

第6回 Chapter 3 Nakamura Brace: Life without Limitations

第7回 第6回と同じ

第8回 Chapter 4 Rakuten: Shopping with a Click

第9回 第8回と同じ

第10回 Chapter3～4の復習

第11回 Shiseido: A Company with a Strong Tradition

第12回 第11回と同じ

第13回 Chapter 6 Nissan: An Overhaul that Worked

第14回 第13回と同じ

第15回 Chapter 5～6の復習

第16回 Chapter 7 Tamanoi Vinegar: Make Your Life Wonderful with Wonders of Kurosu

第17回 第16回と同じ

第18回 Chapter 8 NTT DoCoMo: A Company that is Always Connected

第19回 第18回と同じ

第20回 Chapter 7～8の復習

第21回	Chapter 9 Mizuno: Contributing to Society with Sports	4<E>ビーマニヒミに器英
第22回	第21回と同じ	
第23回	Chapter 10 Sysmex: Japanese Technology for Better Health	英日 器器 器器
第24回	第23回と同じ	
第25回	Chapter 9 ~ 10の復習	
第26回	Chapter 11 Sakata Seed: Not Price But Quality	器器器器器
第27回	Chapter 11の復習	
第28回	Chapter 12 Nissin: Instant Happiness in a Cup	器器器器器
第29回	Chapter 12の復習	
第30回	定期試験	

科目名：英語コミュニケーション4				
英文名：English Communication 4				
担当者： <small>フジオカ マユミ</small> 藤岡 真由美				
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：前期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

各ユニットは、身近で今日の話題を350語前後にまとめた英文が軸となっている。タイトルや絵・写真から英文の概略を推測することに始まり、批判的に読むことに至るまで、様々な手法を駆使してすばやく正確に情報を把握する「読解スキル」の養成を目的とする。また練習問題を通じて、語彙力の強化やリスニング能力の育成を図る。

■学習・教育目標および到達目標

- ・平易な日常会話を十分に理解できる。
- ・音読上の規則を理解し、10語前後からなる会話ができる。場面に応じた表現を使うことができる。
- ・比較的平易な英文を一定の速度で読むことができ、要点を理解することができる。

■教科書

A Complete College English Program (Book 2)、土屋武久他、金星堂

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1回 Unit 1 Reshaping Our Bodies and Mind
- 第2回 Unit 1 続き
- 第3回 Unit 2 Tipping Tips
- 第4回 Unit 2 続き
- 第5回 Unit 3 The Republicans and the Democrats
- 第6回 Unit 3 続き
- 第7回 Unit 4 Tropical Rainforests
- 第8回 Unit 4 続き
- 第9回 Unit 5 Rap
- 第10回 Unit 5 続き
- 第11回 Unit 6 Infodemics
- 第12回 Unit 6 続き
- 第13回 Unit 7 Manga Mania
- 第14回 Unit 7 続き
- 第15回 Unit 8 What's in a Word
- 第16回 Unit 8 続き
- 第17回 Unit 9 Economy Class Syndrome
- 第18回 Unit 9 続き
- 第19回 Unit 10 The Awe of Auroras
- 第20回 Unit 10 続き

- 第21回 Unit 11 What Happened When She Was Stolen?
- 第22回 Unit 11 続き
- 第23回 Unit 12 Sizing Japan Up, or Down
- 第24回 Unit 12 続き
- 第25回 Unit 13 Product Placement
- 第26回 Unit 13 続き
- 第27回 Unit 14 Blue Whale
- 第28回 Unit 14 続き
- 第29回 Unit 15 DNA Fingerprinting
- 第30回 定期試験

科目名：英語コミュニケーション5			
英文名：English Communication 5			
担当者： ^{フジオカ} 藤岡 ^{マユミ} 真由美・ ^{ツジイ} 辻井 ^{エツコ} 悦子			
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：前期	区 分：必修選択の別：選択科目

■授業概要

1年次で学んだTOEIC対策学習をもとに、練習問題を通して、発音、リズム、スピードに慣れ、語彙や慣用表現に親しみながら総合的なリスニング力のさらなるアップを目指して授業を進める。

■学習・教育目標および到達目標

- ・進んだ英語学習に対応できる語彙力、文法力を身につける。
- ・さまざまな場面での発展的な日常会話やオフィスの会話を理解し、これらの会話場面で必要な表現を運用する能力を身につける。
- ・専門分野の入門的な文章をある程度の速さで読み、英語で概要・要点をまとめたり、自分の意見や感想をまとめる能力を身につける。
- ・TOEICテストで440～470点以上を目指す。

■教科書

Essential Listening for the TOEIC Test, 松浦浩子他、金星堂、¥1,155 (2005)

Wordbuilder、近畿大学語学教育部教材開発研究会編、南雲堂

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 導入

「TOEICテスト リスニングへのアプローチ」

第2回 Lesson 1

第3回 Lesson 2

第4回 Lesson 3

第5回 Lesson 4

第6回 Lesson 5
Lesson 6

第7回 Lesson 7
Lesson 8

第8回 Lesson 9
Lesson 10

第9回 Review
Lesson 11

第10回 Lesson 12
Lesson 13

第11回 Lesson 14
Lesson 15

第12回 Lesson 16
Lesson 17

第13回 Lesson 18
Lesson 19

第14回 Lesson 20

英語の基礎

英語の基礎から応用まで

英語の応用

英語の応用から基礎まで

英語の応用から基礎まで

英語の応用

英語の基礎

英語の基礎から応用まで

英語の基礎から応用まで

英語の基礎

英語の基礎から応用まで

英語の応用

英語の応用から基礎まで

英語の基礎

英語の応用

英語の応用から基礎まで

Lesson 1

Lesson 2

Lesson 3

Lesson 4

Lesson 5

Lesson 6

Lesson 7

Lesson 8

Lesson 9

Lesson 10

Lesson 11

Lesson 12

Lesson 13

Lesson 14

Lesson 15

Lesson 16

Lesson 17

Lesson 18

科目名：英語コミュニケーション5				
英文名：English Communication 5				
担当者： <small>タナベ ヨシタカ</small> 田邊 義隆				
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：前期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

1年次で学んだTOEIC対策学習をもとに、実際のTOEICテストと同じ形式の練習問題を数多くこなし、問題を解く「コツ」を効果的に身につけることを目指し授業を進める。

■学習・教育目標および到達目標

- ・進んだ英語学習に対応できる語彙力、文法力を身につける。
- ・さまざまな場面での発展的な日常会話やオフィスの会話を理解し、これらの会話場面で必要な表現を運用する能力を身につける。
- ・専門分野の入門的な文章をある程度の速さで読み、英語で概要・要点をまとめたり、自分の意見や感想をまとめる能力を身につける。
- ・TOEICテストで440～470点以上を目指す。

■教科書

Building Listening Skills for the TOEIC TEST, Richardson 他、ピアソン・エデュケーション、¥1,680 (2005)
Wordbuilder、近畿大学語学教育部教材開発研究会編、南雲堂

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 導入

Lesson 1 (Pre-test: Part I ~ Part II)

第2回 Lesson 1 (Pre-test: Part III ~ Part IV)

Lesson 2 (Skill 1)

第3回 Lesson 2 (Skill 2)

第4回 Lesson 3

第5回 Lesson 4 (Skill 1)

第6回 Lesson 4 (Skill 2)

第7回 Review

Lesson 5

第8回 Lesson 6

第9回 Lesson 7

第10回 Lesson 8

第11回 Lesson 9

第12回 Lesson 10

第13回 Lesson 11

第14回 Lesson 12

第15回 期末試験

科目名：英語コミュニケーション5

英文名：English Communication 5

担当者：川上 文子・加賀田 哲也

単 位：1単位

開講年次：2～4年次

開講期：前期

区 分：

必修選択の別：選択科目

■授業概要

1年次で学んだTOEIC対策学習をもとに、実際のTOEICテストのリスニングセクションに即した形式の問題を解き、より一層のリスニング力の強化を計り、同時に語彙力も伸ばすことを目指し授業を進める。

■学習・教育目標および到達目標

- ・進んだ英語学習に対応できる語彙力、文法力を身につける。
- ・さまざまな場面での発展的な日常会話やオフィスの会話を理解し、これらの会話場面で必要な表現を運用する能力を身につける。
- ・専門分野の入門的な文章をある程度の速さで読み、英語で概要・要点をまとめたり、自分の意見や感想をまとめる能力を身につける。
- ・TOEICテストで440～470点以上を目指す。

■教科書

New Listening Tactics for the TOEIC TEST, Kiggell 他、マクミラン、¥1,890 (2004)
Wordbuilder、近畿大学語学教育部教材開発研究会編、南雲堂

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1回 導入
Unit 1
- 第2回 Unit 1
- 第3回 Unit 2
- 第4回 Unit 3
- 第5回 Unit 4
- 第6回 Unit 5
- 第7回 Review
Unit 6
- 第8回 Unit 6
- 第9回 Unit 7
- 第10回 Unit 8
- 第11回 Unit 9
- 第12回 Unit 10
- 第13回 Unit 11
- 第14回 Unit 12
Review
- 第15回 期末試験

科目名: 英語コミュニケーション5(再)				
英文名: English Communication 5				
担当者: ^{ニシハラ マサル} 西原 勝				
単 位: 1単位	開講年次: 2～4年次	開講期: 前期	区 分:	必修選択の別: 選択科目

■授業概要

文法を整理、確認しながら、基本的な英語が読めるようになることを目指します。

■学習・教育目標および到達目標

授業では、できる限り多くの板書をしながら、基本的な文法を復習します。この知識を活用して平易な英語を読みます。辞書を引きながら、自分一人で読めるようにします。ヒアリングの方は、何度も何度も聞かせます。少しずつ慣れてきます。

■教科書

テキスト Basic Faster Reading
 著者 Casey Malarcher (他)
 出版社 成美堂
 定価 1700円 (税別)

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1回 Lions
- 第2回 Harry Potter
- 第3回 Bubble Gum
- 第4回 The Leaning Tower
- 第5回 Talking Birds
- 第6回 Television
- 第7回 The Taj Mahal
- 第8回 A Winning Dream
- 第9回 The History of Bowling
- 第10回 A Long Weekend
- 第11回 Michelle Yeoh
- 第12回 Studying Abroad
- 第13回 The Salt Palace Hotel
- 第14回 Trying Again
- 第15回 定期試験

科目名：英語コミュニケーション6			
英文名：English Communication 6			
担当者：辻井悦子			
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：後期	区分：必修選択の別：選択科目

■授業概要

基礎科学の読解用教材を通して、科学の基礎知識を深めるとともに、速読力と語彙力の強化を図る。同時に様々な練習問題に取り組み、4技能の総合的な向上を目指す。

■学習・教育目標および到達目標

- ・進んだ英語学習に対応できる語彙力、文法力を身につける。
- ・さまざまな場面での発展的な日常会話やオフィスの会話を理解し、これらの会話場面で必要な表現を運用する能力を身につける。
- ・専門分野の入門的な文章をある程度の速さで読み、英語で概要・要点をまとめたり、自分の意見や感想をまとめる能力を身につける。
- ・TOEICテストで440～470点以上を目指す。

■教科書

Understanding Basic Science (総合教材：科学の基礎を英語で読む)、岡本糸美他、2005年、英宝社
Word Builder、近畿大学語学教育部教材開発研究会編、2003年、南雲堂

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Lesson 1: Universe

第2回 Lesson 2: The sun, the earth and the moon

第3回 Lesson 3: Living things

第4回 Lesson 4: Cells

第5回 Lesson 5: Blood 1

第6回 Lesson 6: Blood 2

第7回 Review: Lesson 1-6

第8回 Lesson 7: Atoms and molecules

第9回 Lesson 8: Moving particles

第10回 Lesson 9: Rusting

第11回 Lesson 10: Gravitational force

第12回 Lesson 11: Friction

第13回 Lesson 12: Pressure

第14回 Review: 7-12

第15回 定期試験

科目名: 英語コミュニケーション6				
英文名: English Communication 6				
担当者: <small>タナベ ヨシタカ</small> 田邊 義隆				
単 位: 1単位	開講年次: 2～4年次	開講期: 後期	区 分:	必修選択の別: 選択科目

■授業概要

様々なトピックを取り上げたテキストを通して、読解スキルを養成するとともに、速読力と語彙力の強化を図る。同時にテキスト中の練習問題や口頭練習に取り組み、4技能の総合的な向上を目指す。

■学習・教育目標および到達目標

- ・進んだ英語学習に対応できる語彙力、文法力を身につける。
- ・さまざまな場面での発展的な日常会話やオフィスの会話を理解し、これらの会話場面で必要な表現を運用する能力を身につける。
- ・専門分野の入門的な文章をある程度の速さで読み、英語で概要・要点をまとめたり、自分の意見や感想をまとめる能力を身につける。
- ・TOEICテストで440～470点以上を目指す。

■教科書

Reading Keys Silver A、Miles Craven、2003年、Macmillan L. H.
Word Builder、近畿大学語学教育部教材開発研究会編、2003年、南雲堂

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Unit 1: Student days

第2回 Unit 2: Studying abroad

第3回 Unit 3: Alternative education

第4回 Unit 4: Talking through problems

第5回 Unit 5: Love around the world

第6回 Unit 6: That's not our custom

第7回 Review: Unit 1-6

第8回 Unit 7: Musical memories

第9回 Unit 8: Getting to the top

第10回 Unit 9: Simply amazing

第11回 Unit 10: What makes you happy?

第12回 Unit 11: Help yourself to health

第13回 Unit 12: Think positive!

第14回 Review: Unit 7-12

第15回 定期試験

科目名：英語コミュニケーション6

英文名：English Communication 6

担当者：川上 文子

単 位：1単位

開講年次：2～4年次

開講期：後期

区 分：

必修選択の別：選択科目

■授業概要

リーディングを主眼にした総合教材的なテキストを使用し、問題意識を喚起するような内容を持つ題材を読んでいくことにより読解力の養成を図る。また、語彙の正しい運用の仕方やリーディングの効果的なストラテジー（方略）を学ぶ。

■学習・教育目標および到達目標

- ・進んだ英語学習に対応できる語彙力、文法力を身につける。
- ・さまざまな場面での発展的な日常会話やオフィスの会話を理解し、これらの会話場面で必要な機能や表現を運用する能力を身につける。
- ・専門分野の入門的な文章をある程度の速さで読み、英語で概要・要点をまとめたり、自分の意見や感想をまとめる能力を身につける。
- ・TOEICテストで440～470点以上を目指す。

■教科書

Insights for Today, 2nd Edition, Japan Edition, Lorraine C. Smith & Nancy Nici Mare, Shohakusha (2001)
Word Builder, 近畿大学語学教育部教材開発研究会、南雲堂 (2003)

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 導入, Chapter 1: A Family Sees America Together

第2回 Chapter 1: Another Look: Courtney's Texans-Big History, Big Cities, Big Hears

第3回 Chapter 2: How Alike Are Identical Twins?

第4回 Chapter 2: Another Look: Diary of a Triplet Father

第5回 Chapter 3: Laptops for the Classroom

第6回 Chapter 3: Another Look: Banking at Home

第7回 Chapter 4: The International Space Station: A World Project

第8回 Chapter 4: Another Look: Spinoff Technology

第9回 Chapter 5: The Dangers of Secondhand Smoke

第10回 Chapter 5: Another Look: Smoking Facts and Figures

第11回 Chapter 6: A Healthy Diet for Everyone

第12回 Chapter 6: Another Look: Why Do I Eat When I'm Not Hungry?

第13回 Chapter 7: Alfred Nobel: A Man of Peace

第14回 Chapter 7: Another Look: Choosing Nobel Prize Winners

第15回 定期試験

科目名：英語コミュニケーション6				
英文名：English Communication 6				
担当者： ^{フジオカ} 藤岡 ^{マユミ} 真由美・ ^{カガタ} 加賀田 ^{テツヤ} 哲也				
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：後期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

現代のさまざまなできごとを扱ったテキストを使用し、読解力の養成を図る。また、英文の特徴、構成に留意した読解力向上に必要なリーディングの効果的なストラテジー（方略）を学ぶとともに、語彙力の増強も図る。

■学習・教育目標および到達目標

- ・進んだ英語学習に対応できる語彙力、文法力を身につける。
- ・さまざまな場面での発展的な日常会話やオフィスの会話を理解し、これらの会話場面で必要な機能や表現を運用する能力を身につける。
- ・専門分野の入門的な文章をある程度の速さで読み、英語で概要・要点をまとめたり、自分の意見や感想をまとめる能力を身につける。
- ・TOEICテストで440～470点以上を目指す。

■教科書

Prism Blue, Timothy Kiggell & Katsuhiko Muto, Macmillan Languagehouse (2004)
Word Builder、近畿大学語学教育部教材開発研究会 (2003)

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Chapter 1: Pet Medicine

第2回 Chapter 2: China's Four-Wheel Revolution

第3回 Chapter 3: Lifestyle Coaches

第4回 Chapter 4: Wasabi From Tasmania

第5回 Chapter 5: Time Out

第6回 Chapter 6: Women Bodyguards

第7回 Chapter 7: Taste and Flavor

第8回 Chapter 8: Cutting Edge Technology

第9回 Chapter 9: Cowboys and Samurai

第10回 Chapter 10: Prison Fashion

第11回 Chapter 11: Aftereffects of War

第12回 Chapter 12: The Art of Making Perfume

第13回 Chapter 13: Living with Reindeer

第14回 Chapter 14: A Ghostly Tale

第15回 定期試験

科目名：英語コミュニケーション6(再)			
英文名：English Communication 6			
担当者： <small>ニシハラ マサル</small> 西原 勝			
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：後期	区 分：必修選択の別：選択科目

■授業概要

文法を整理、確認しながら、基本的な英文が読めるようになることを目指します。

■学習・教育目標および到達目標

授業では、基本的な文法を復習します。この文法の知識を活用しながら、平易な英語を読んでいます。辞書を引きながら、自分一人で読めるようにします。ヒアリングの方は、何度も何度も聞かせます。少しずつ慣れてきます。

■教科書

テキスト Basic Skills for Reading
 著者 Neil J. Anderson (他)
 出版社 成美堂
 定価 1700円 (税別)

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1回 Food Facts
- 第2回 Choosing to Study Overseas
- 第3回 A Student Budget
- 第4回 The World's Oldest University
- 第5回 What's Your Sign?
- 第6回 The Seven Ancient Wonders
- 第7回 Let's Play Ball!
- 第8回 Gadgets for Work and Play
- 第9回 A Good Night's Sleep
- 第10回 The History of English
- 第11回 Food That Makes You Feel Good
- 第12回 Lily's Travel Journal
- 第13回 My Mony
- 第14回 Lifelong Learning
- 第15回 定期試験

科目名：英語コミュニケーション7		8ヶ月間で英語力アップ	
英文名：English Communication 7		8 months to improve English	
担当者：石井 重光		英語科 英語科	
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：前期	区 分：大学1-8
		必修選択の別：選択科目	

■授業概要

これまでに学んだ、リーディング、リスニングのブラッシュアップを目指します。リーディング、リスニングの練習は、テキストは使用せず、TOEFL、TOEICやSATのプリント教材を使い、英語力の向上を目指します。

■学習・教育目標および到達目標

- ・TVやラジオや映画の英語を通して語彙力を高め、音声変化に習熟することによってリスニング能力を高める。
- ・聞き取った内容について英語で概要・要点をまとめたり、自分の意見や感想をまとめて発表する能力を高める。

■教科書

プリント使用。

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回	導入	導入	1回
第2回	TOEFLリスニング	リスニング	2回
第3回	TOEFLリスニング	リスニング	3回
第4回	TOEFLリスニング	リスニング	4回
第5回	TOEFL読解、文法	読解、文法	5回
第6回	TOEFL読解、文法	読解、文法	6回
第7回	TOEFL読解、文法	読解、文法	7回
第8回	TOEICリスニング	リスニング	8回
第9回	TOEICリスニング	リスニング	9回
第10回	TOEIC読解、文法	読解、文法	10回
第11回	TOEIC読解、文法	読解、文法	11回
第12回	SAT	SAT	12回
第13回	SAT	SAT	13回
第14回	SAT	SAT	14回
第15回	期末試験	期末試験	15回

科目名：英語コミュニケーション8			
英文名：English Communication 8			
担当者： ^{イシイ シグミツ} 石井 重光			
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要

これまでに学んだ、リーディング、リスニングのブラッシュアップを目指します。テキストは使用せず、TOEFL、TOEICやSATのプリント教材を使い、英語力の向上を目指します。

■学習・教育目標および到達目標

- ・TVやラジオや映画の英語を通して語彙力を高め、音声変化に習熟することによってリスニング能力を高める。
- ・聞き取った内容について英語で概要・要点をまとめたり、自分の意見や感想をまとめて発表する能力を高める。

■教科書

プリント使用

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 導入

第2回 TOEICリスニング

第3回 TOEICリスニング

第4回 TOEIC読解、文法

第5回 TOEIC読解、文法

第6回 TOEFLリスニング

第7回 TOEFLリスニング

第8回 TOEFLリスニング

第9回 TOEFL読解、文法

第10回 TOEFL読解、文法

第11回 TOEFL読解、文法

第12回 SAT

第13回 SAT

第14回 SAT

第15回 期末試験

科目名：英語コミュニケーション8				
英文名：English Communication 8				
担当者：越川 菜穂子				
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：後期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

CNNニュースのビデオを扱い、内容に関する練習問題を解いていく。テキストの全ての章（下記に記載）を終えるのは困難であると思われるので、第2章以降は希望調査を行い、その結果に応じて、どの章を扱うかを定める。

1. Passion for Aramic (第1, 2回講義で扱う) 2. Capture of Saddam Hussein 3. China's Rocket 4. Battle for California 5. Heat Wave in Europe 6. American Morning 7. Venice 1 8. Venice 2 9. Oscar Awards 10. Satellite TV in Cars 11. SARS

■学習・教育目標および到達目標

まずビデオでリスニングし、スクリプトで内容を確認し、練習問題を解くことで語彙、空所補充、リスニング、内容正誤、ライティング力の向上を目指す。

■教科書

『CNNビデオで見る世界のニュース (6)』、関西大学英语教育研究会、朝日出版社

■参考文献

各章に関連のあるインターネット記事等。
随時授業で配布または指示する。

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Passion for Aramic

本文リスニング、解釈、語彙問題

第2回 Passion for Aramic (続き)

空所補充問題、リスニング問題、内容正誤問題、ライティング問題

第3回 第2章 (希望調査による章)

本文リスニング、解釈、語彙問題

第4回 第2章 (続き)

空所補充問題、リスニング問題、内容正誤問題、ライティング問題

第5回 第3章 (希望調査による章)

本文リスニング、解釈、語彙問題

第6回 第3章 (続き)

空所補充問題、リスニング問題、内容正誤問題、ライティング問題

第7回 第4章 (希望調査による章)

本文リスニング、解釈、語彙問題

第8回 第4章 (続き)

空所補充問題、リスニング問題、内容正誤問題、ライティング問題

第9回 第5章 (希望調査による章)

本文リスニング、解釈、語彙問題

第10回 第5章 (続き)

空所補充問題、リスニング問題、内容正誤問題、ライティング問題

第11回 第6章 (希望調査による章)

本文リスニング、解釈、語彙問題

第12回 第6章 (続き)

空所補充問題、リスニング問題、内容正誤問題、ライティング問題

第13回 第7章 (希望調査による章)

本文リスニング、解釈、語彙問題

第14回 第8章 (続き)

空所補充問題、リスニング問題、内容正誤問題、ライティング問題

第15回 定期試験

科目名: 英語コミュニケーション9				
英文名: English Communication 9				
担当者: ^{インザキ ケイコ} 磯崎 恵子				
単 位: 1単位	開講年次: 2～4年次	開講期: 前期	区 分:	必修選択の別: 選択科目

■授業概要

全米一の視聴率を誇る報道番組 CBS 60 Minutes を題材にしたビデオ教材を使用し、「聴く、話す、読む、書く」の4技能をバランスよく伸ばすことを目指します。

■学習・教育目標および到達目標

- ・英文記事を速読する能力を高めるとともに、TVアナウンスなどを聞き取るリスニング能力を高める。
- ・英語で概要・要点をまとめたり、自分の意見や感想をまとめて発表する能力を高める。
- ・TOEICテストで600点以上を目指す。

■教科書

Tune In: World Issues with CBS 60 Minutes, K.Yoshida 他, 三修社

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

第2回 Alex, Unit 1

第3回 Alex, Unit 1

第4回 Alex, Unit 2

第5回 Alex, Unit 2

第6回 Alex, Unit 3

第7回 Alex, Unit 3

第8回 One Child's Labor, Unit 1

第9回 One Child's Labor, Unit 1

第10回 One Child's Labor, Unit 2

第11回 One Child's Labor, Unit 2

第12回 One Child's Labor, Unit 3

第13回 One Child's Labor, Unit 3

第14回 One Child's Labor, Unit 3

第15回 定期試験

科目名：英語コミュニケーション9

英文名：English Communication 9

担当者：^{アイタ シュウイチ}相田 周一

単 位：1単位

開講年次：2～4年次

開講期：前期

区 分：

必修選択の別：選択科目

■授業概要

イギリスに関する平明な英語で書かれたテキストを用い、イギリスの政治、経済、文化、教育、言語、メディアなどいろいろな事情を理解し、その英語を使い、自己表現できる訓練を行う。聴解、音読、読解、英作文など、英語の総合力の向上を目指す。

■学習・教育目標および到達目標

イギリスに関する幅広い知識の会得と、聴解、音読、読解、英作文など、英語の総合力の向上を目指す。

■教科書

In Britain:マクミラン ランゲージハウス：Michael Vaughan-Rees

■参考文献

適宜指示する

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験（50%）、小テスト（20%）、口頭発表及び課題（30%）

■研究室・E-mailアドレス

講師控室

■オフィスアワー

出講時に講師控室にて

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第一回目は授業の概説や自己紹介をし、次回からは、テキストを4ページずつ読み進めていくこととする。

科目名: 英語コミュニケーション10				
英文名: English Communication 10				
担当者: ^{インザキ ケイコ} 磯崎 恵子				
単 位: 1単位	開講年次: 2～4年次	開講期: 後期	区 分:	必修選択の別: 選択科目

■授業概要

前期に引き続き、CBS 60 Minutes を教材にして、「聴く、話す、読む、書く」の4技能をバランスよく伸ばすことを目指します。

■学習・教育目標および到達目標

- ・英文記事を速読する能力を高めるとともに、TVアナウンスなどを聞き取るリスニング能力を高める。
- ・英語で概要・要点をまとめたり、自分の意見や感想をまとめて発表する能力を高める。
- ・TOEICテストで600点以上を目指す。

■教科書

Tune In: World Issues with CBS 60 Minutes, K.Yoshida他, 三修社

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1回 Carla and the Disciples, Unit 1
- 第2回 Carla and the Disciples, Unit 1
- 第3回 Carla and the Disciples, Unit 2
- 第4回 Carla and the Disciples, Unit 2
- 第5回 Carla and the Disciples, Unit 3
- 第6回 Carla and the Disciples, Unit 3
- 第7回 Carla and the Disciples, Unit 3
- 第8回 Do You Really Want to Know?, Unit 1
- 第9回 Do You Really Want to Know?, Unit 1
- 第10回 Do You Really Want to Know?, Unit 2
- 第11回 Do You Really Want to Know?, Unit 2
- 第12回 Do You Really Want to Know?, Unit 3
- 第13回 Do You Really Want to Know?, Unit 3
- 第14回 Do You Really Want to Know?, Unit 3
- 第15回 定期試験

科目名：英語コミュニケーション10			
英文名：English Communication 10			
担当者： ^{アイタ シュウイチ} 相田 周一			
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要

イギリスに関する平明な英語で書かれたテキストを用い、イギリスの政治、経済、文化、教育、言語、メディアなどいろいろな事情を理解し、その英語を使い、自己表現できる訓練を行う。聴解、音読、読解、英作文など、英語の総合力の向上を目指す。

■学習・教育目標および到達目標

イギリスに関する幅広い知識の会得と、聴解、音読、読解、英作文など、英語の総合力の向上を目指す。

■教科書

In Britain:マクミラン ランゲージハウス：Michael Vaughan-Rees

■参考文献

適宜指示する

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験（50%）、小テスト（20%）、口頭発表及び課題（30%）

■研究室・E-mailアドレス

講師控室

■オフィスアワー

出講時に講師控室にて

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第一回目は授業の概説や自己紹介をし、次回からは、テキストを4ページずつ読み進めていくこととする。（後期は前期の続きから読み進める）

科目名： オーラルコミュニケーション1				
英文名： Oral Communication 1				
担当者： ウイツェッドクレイグ・オルズイッククリス・カールバトラー・クリストファー カウエン・シェフナー マーク・ラミレズ カルロス・ロジャース コリン				
単 位： 1単位	開講年次： 2～4年次	開講期： 前期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

さまざまな場面（挨拶、自己紹介、電話、買い物、食べ物の注文、道案内、予約、銀行、ホテル、病院、家族の話など）を設定し、基礎的な語彙を増やし、その用法を学ぶ。また、ロールプレイを演じることにより、言葉の機能（許可、依頼、招待、提案、予定、計画など）を学ぶ。

■学習・教育目標および到達目標

- ・日常会話に必要な基礎的語彙を増やし、その用法に習熟する。
- ・さまざまな場面を設定し、言葉の機能を学ぶ。
- ・ロールプレイを演じることにより、基礎的な会話能力を身につける。

■教科書

最初の授業で指示する。

■参考文献

最初の授業で指示する。

■試験方法

口頭発表

■成績評価基準

口頭発表25%、小テスト25%、宿題・レポート50%

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 授業の目標や説明、挨拶

第2回 自己紹介、飛行機内での会話

第3回 依頼、食べ物の注文

第4回 許可、目的の説明

第5回 銀行での話、数字、数えること

第6回 ホテルでの会話、提案

第7回 道案内

第8回 復習レッスン

第9回 学生の発表

第10回 電話の会話、招待、ホームステイ

第11回 病院での会話

第12回 予定、予約、計画

第13回 レストランでの注文

第14回 家族の話

第15回 期末試験

科目名： オーラルコミュニケーション2			
英文名： Oral Communication 2			
担当者： ウイツェッドクレイグ・オルズイッククリス・カールバトラー・クリストファー カウエン・シェフナー マーク・ラミレズ カルロス・ロジャース コリン			
単 位： 1単位	開講年次： 2～4年次	開講期： 後期	区 分： 必修選択の別： 選択科目

■授業概要

さまざまな場面（挨拶、自己紹介、電話、買い物、食べ物の注文、道案内、予約、銀行、ホテル、病院、家族の話など）を設定し、基礎的な語彙を増やし、その用法を学ぶ。また、ロールプレイを演じることにより、言葉の機能（許可、依頼、招待、提案、予定、計画など）を学ぶ。

■学習・教育目標および到達目標

- ・日常会話に必要な基礎的語彙を増やし、その用法に習熟する。
- ・さまざまな場面を設定し、言葉の機能を学ぶ。
- ・ロールプレイを演じることにより、基礎的な会話能力を身につける。

■教科書

最初の授業で指示する。

■参考文献

最初の授業で指示する。

■試験方法

口頭発表

■成績評価基準

口頭発表25%、小テスト25%、宿題・レポート50%

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 夏休みについての話

第2回 外食、チップなどの習慣のこと

第3回 好き嫌い、趣味

第4回 相手の意見、意見を尋ねる

第5回 ホームステイでの話し、日本について

第6回 旅行、交通

第7回 買い物

第8回 復習レッスン

第9回 学生の発表

第10回 郵便

第11回 情報の尋ね方

第12回 感謝、感情

第13回 空港、総合復習

第14回 学生の発表

第15回 期末試験

科目名： **オーラルコミュニケーション3**

英文名： Oral Communication 3

担当者： **アボット フランシス・オルズイック クリス・クリステイナ フーラ・スチュアート**
トッド・セラノ セヴェン・ハリスカリク エスト・メルヴィル レイ ウィリアム

単 位： 1単位

開講年次： 2～4年次

開講期： 前期

区 分：

必修選択の別： 選択科目

■授業概要

身近なトピック（家族、住まい、音楽、スポーツ、友達、テレビ、仕事、休暇、学生生活など）について、聞いたり、読んだりしたことを口頭で説明したり、自分の意見や感想をつけ加えて発表したり、簡単なディスカッションを行うことにより、会話力をさらに伸ばす。また、簡単なスピーチやディベートの練習も行う。

■学習・教育目標および到達目標

- ・身近なトピックについて聞いたり読んだりしたことを口頭で説明できる。
- ・自分の意見や感想を付け加えて発表できる。
- ・簡単なディスカッションを行う能力を身につける。

■教科書

最初の授業で指示する。

■参考文献

最初の授業で指示する。

■試験方法

口頭発表

■成績評価基準

口頭発表25%、小テスト25%、宿題・レポート50%

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 授業の目標や、挨拶

第2回 自己紹介、自叙伝の書き方

第3回 自叙伝の口頭発表

第4回 物の描写について

第5回 場所の描写について

第6回 場所の描写の口頭発表

第7回 場所の描写の口頭発表

第8回 人の描写について

第9回 人の描写の口頭発表

第10回 プロセスについて

第11回 プロセスの口頭発表

第12回 復習レッスン、スキットの創作

第13回 復習レッスン、スキットの準備

第14回 スキットの口頭発表

第15回 期末試験

科目名：オーラルコミュニケーション4				
英文名：Oral Communication 4				
担当者：アボット フランシス・オルズイック クリス・クリステイナ フーラ・スチュアート トッド・セラノ セヴェン・ハリス カリクエスト・メルヴィルレイ ウィリアム				
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：後期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

身近なトピック（家族、住まい、音楽、スポーツ、友達、テレビ、仕事、休暇、学生生活など）について、聞いたり、読んだりしたことを口頭で説明したり、自分の意見や感想を付け加えて発表したり、簡単なディスカッションを行うことにより、会話力をさらに伸ばす。また、簡単なスピーチやディベートの練習も行う。

■学習・教育目標および到達目標

- ・身近なトピックについて聞いたり、読んだりしたことを口頭で説明できる。
- ・自分の意見や感想を付け加えて発表できる。
- ・簡単なディスカッションを行う能力を身につける

■教科書

最初の授業で指示する。

■参考文献

最初の授業で指示する。

■試験方法

口頭発表

■成績評価基準

口頭発表25%、小テスト25%、宿題・レポート50%

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 夏休みについての話

第2回 物語のナレーションについて

第3回 物語のナレーションの口頭発表

第4回 比較・対照について

第5回 比較・対照のディベート及びスキットの準備

第6回 比較・対照のディベート及びスキットの発表

第7回 原因・結果について

第8回 原因・結果の口頭発表及びスキットの発表

第9回 日本文化についての発表のための準備

第10回 日本文化についての口頭発表

第11回 日本語についての発表のための準備

第12回 日本語についての口頭発表

第13回 自由なトピックの発表の準備

第14回 自由なトピックの口頭発表

第15回 期末試験

科目名： 基礎生物学英語				
英文名： Basic Biological English				
担当者： ^{タニノ} ^{タダトシ} 谷野 公俊				
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

生物科学の最新情報は英語で書かれているものを通して得られることがほとんどであるので、迅速かつ的確に解読するには英語の読解力と表現力を学ぶ必要がある。この講義では、生物系の学術論文、専門書および英文記事を読みこなすための基礎読解力を習得する。

■学習・教育目標および到達目標

生物学関連の原著論文および専門書が大筋で理解できる程度の読解力を養う。

■教科書

生物学関連の原著論文、専門書あるいは最近の話題に関する英文記事を適宜プリントにして配布する。

■参考文献

ステッドマン医学大辞典（メジカルビュー社）

■関連科目

基礎化学英語

■試験方法

小テスト、定期試験

■成績評価基準

平常点（出席、発表、レポート）：50%

定期試験：50%

■授業評価実施方法

第13回目の授業時間内に、15分程度で実施する。

■研究室・E-mailアドレス

生物薬剤学研究室

tanino@phar.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

平日9時～18時、生物薬剤学研究室で受け付けます。メールでの質問、歓迎します。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 生化学で使用される英語表現①

標記に関する原著論文をプリントで配布し、講義と演習形式で学習する。

第2回 生化学で使用される英語表現②

標記に関する専門書をプリントで配布し、講義と演習形式で学習する。

第3回 薬理学で使用される英語表現③

標記に関する原著論文をプリントで配布し、講義と演習形式で学習する。

第4回 薬理学で使用される英語表現④

標記に関する専門書をプリントで配布し、講義と演習形式で学習する。

第5回 生物薬剤学で使用される英語表現⑤

標記に関する原著論文をプリントで配布し、講義と演習形式で学習する。

第6回 生物薬剤学で使用される英語表現⑥

標記に関する専門書文をプリントで配布し、講義と演習形式で学習する。

第7回 毒性学で使用される英語表現⑦

標記に関する原著論文をプリントで配布し、講義と演習形式で学習する。

第8回 中間試験

第9回 生化学関連記事の読解①

標記に関する題材をプリントで配布し、講義と演習形式で学習する。

第10回 生化学関連記事の読解②

標記に関する題材をプリントで配布し、講義と演習形式で学習する。

第11回 薬理学関連記事の読解③

標記に関する題材をプリントで配布し、講義と演習形式で学習する。

第12回 薬理学関連記事の読解④

標記に関する題材をプリントで配布し、講義と演習形式で学習する。

第13回 生物薬剤学関連記事の読解⑤

標記に関する題材をプリントで配布し、講義と演習形式で学習する。

第14回 毒性学関連記事の読解⑥

標記に関する題材をプリントで配布し、講義と演習形式で学習する。

第15回 定期試験

科目名： 基礎化学英語				
英文名： Elementary chemical English				
担当者： <small>クワジマ ヒロシ</small> 桑島 博				
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

大学院進学志望者はいうまでもなく、薬学生が将来携わる実際の医療現場において、海外の幅広い情報を的確かつ迅速に理解するために、英語の読解力を養うことが必須となる。本講義は、自然科学分野で使用頻度の高い学術用語および表現法について幅広く学び、英語の読解力を養うことを目的とする。基礎編では、化学英語で頻出するイディオムに慣れ、さらに、応用編では、薬学の専門的な英文にふれながら、化学英語の基本的な様相を把握できるよう講義をすすめていく。

■教科書

- 「化学英語読本」宮野成二 編（廣川書店）、2625円
- その他に、プリントを配布する

■参考文献

- 「わかりやすい薬学英语」伊藤智夫 他著（廣川書店）
- 「例文を中心とした薬学英语」小倉治夫 監修（廣川書店）

■関連科目

天然物薬化学、有機化学系科目

■試験方法

(種類) 定期試験、臨時試験、小テスト (随時)
(方法) 記述式

■成績評価基準

平常点50% (出席、授業参加、小テスト、提出物などを含む)、試験50%で決定する。出席率が65%に満たない学生は、成績評価の対象外とすることがある。

■授業評価実施方法

実施時期：授業回数第13回
所要時間：15分

■研究室・E-mailアドレス

e-mail: kuwajima@phar.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

随時 (ただし、実習期間中は、実習終了後)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 基礎編 1、化合物の英語による表現と発音

〈項目・内容〉有機化合物名は例えば、“アルコール”、“エーテル”など、ドイツ語読みでそのまま日本語として表現されている例が多い。英語では“アルコール”、“イーサー”と発音することを、カセットテープによるヒアリングで習得する。

〈到達目標〉化合物名の英語による表現と発音に慣れる。

第2回 基礎編 2、慣用名とIUPAC名の表現法。

〈項目・内容〉化合物の名は起源に基づいて命名される場合が多く、例えば、酢酸 acetic acid はラテン語の食酢 acetum に由来する。“IUPAC 命名法”では化合物を接頭語 (置換基の位置) - 母体名 (炭素数) - 接尾語 (群) の三部分に分け、系統的に命名する規則であるから、酢酸はエタン酸 (ethanoic acid) と命名される。

〈到達目標〉英語による慣用名 trivial name と IUPAC 名 (IUPAC nomenclature system) の表現力を理解できる。

第3回 基礎編 3、よく使われるイデオムの実例 1

〈項目・内容〉第3～第5回にわたり、化学論文で汎用されるイデオムを学ぶ。さらに、実例を通して化学反応や機構についても解説する。

〈到達目標〉化学英語で汎用されるイデオムを習得できる。

第4回 基礎編 4、よく使われるイデオムの実例 2

〈項目・内容〉

第5回 基礎編 5、よく使われるイデオムの実例 3

〈項目・内容〉

第6回 応用編 1、有機化学英語の表現法 (その1) : 「The Beckmann Rearrangement」

〈項目・内容〉 Benzophenone oxime を五塩化リンと反応させると benzanilide を生成することが Beckmann により発見された。一般に oxime を amide に変換する反応をベックマン転位反応 Beckmann Rearrangement という。3年次の「有機・医薬品化学実習」でこの反応を利用して、acetophenone oxime から acetanilide を合成している。本講義では、用いる酸触媒の種類や反応機構について理論的な側面も解説する。

〈到達目標〉 英文の実例を通して、Beckmann 転位反応に用いる触媒や反応機構について理解できる。

第7回 応用編 2、有機化学英語の表現法 (その2) : 「The Claisen Condensation」

〈項目・内容〉 塩基性触媒下エステルと活性メチレンを有する化合物 (ester, aldehyde, ketone, nitrile) との反応を Claisen 縮合と呼んでいる。本反応で用いる触媒の種類や反応例を、英文を介して、反応機構と共に解説する。

〈到達目標〉 英文の実例を通して、Claisen 縮合反応に用いる触媒や反応機構について理解できる。

第8回 臨時試験

第9回 応用編 3、アルカロイド (その1)

〈項目・内容〉 アルカロイドの概念を説明し、次いで具体的な化合物 nicotine, quinine および reserpine の各含有植物や生物活性および構造決定法についての専門的な表現法を2回にわたり解説する。

〈到達目標〉 第9回、10回の講義から、各アルカロイドの化学的性質、基本骨格、含有植物、生物活性および確認試薬など、英文を通して整理・理解できる。

第10回 応用編 4、アルカロイド (その2)

〈項目・内容〉

第11回 応用編 4、Chemotherapy of Cancer : 抗がん剤 (その1)

〈項目・内容〉 Sarcoma (肉腫)、neoplasm (悪性腫瘍)、leukemia (白血病) など、がんに関連する英単語、「アルキル化剤」、「代謝阻害剤」「天然物由来」の各種抗がん剤を4回シリーズで解説する。

〈到達目標〉 がんに関連する英単語、代表的な抗がん剤を習得できる。

第12回 応用編 5、Chemotherapy of Cancer : 抗がん剤 (その2)

〈項目・内容〉

第13回 応用編 6、Chemotherapy of Cancer : 抗がん剤 (その3)

〈項目・内容〉

第14回 応用編 7、Chemotherapy of Cancer : 抗がん剤 (その4)

〈項目・内容〉

第15回 定期試験

科目名: イングリッシュカルチャーセミナー1				
英文名: English culture seminar 1				
担当者: カネル キムロバート				
単 位: 1単位	開講年次: 3～4年次	開講期: 前期	区 分:	必修選択の別: 選択科目

■授業概要

受講者はアメリカや他の異文化のトピックに関する話を聞いたり、読んだり、ディスカッションやディベートに参加して、日本と欧米を比較した口頭発表をする。

■学習・教育目標および到達目標

英語圏の文化に関する基礎的な情報を理解し、英語で書かれた新聞、雑誌、インターネット上の今日的话题について概要・要点を理解する能力を身につける。また、そうした情報に関して自己の意見を述べたり、議論できる能力を身につける。

■教科書

最初の授業で指示する

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■研究室・E-mailアドレス

研究室: 11号館3階 342号室

Eメール: kimkanel@msa.kindai.ac.jp

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1回 Course Description and requirements-Language and culture
- 第2回 Values:religion,fashion,friendship
- 第3回 Media:TV,radio,magazines,newspapers,Internet
- 第4回 Leisure & Entertainment:sports,music,movies,travel
- 第5回 Health,Fitness & Medicine
- 第6回 Oral Presentations
- 第7回 Education
- 第8回 Male and female roles
- 第9回 Dating, Courtship & Marriage
- 第10回 Parenting
- 第11回 Oral Presentations
- 第12回 House & Home:food,housework
- 第13回 Work:time and money
- 第14回 Law & Politics
- 第15回 定期試験

科目名： イングリッシュカルチャーセミナー 1				
英文名： English culture seminar 1				
担当者： 岩男 久仁子				
単 位： 1単位	開講年次： 3～4年次	開講期： 前期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

英国の伝説や民話を原文で読む。その背景を解説。
 まず、自分自身で読み、何が書いてあるかを把握し、意見を出していく。
 授業進行に合わせて、4～5話ほど取り上げ読んでいく。
 読んでみたい話のリクエストにも応じる。

■学習・教育目標および到達目標

英語圏に伝承されている話を読み、日本の民話などと比べ、「ファンタジー物語」発祥の国とされる背景を知る。

■教科書

プリントを用意

■参考文献

英和・和英辞書（必ず、持ってくること）
 他の本は授業中に適宜指示する。

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験（50%）、小テスト（20%）、口頭発表及び課題（30%）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ガイダンス

授業の説明、導入。使用するプリントなどの説明。

第2回 Story 1

第3回 Story 1

第4回 Story 1

第5回 Story 2

第6回 Story 2

第7回 Story 2

第8回 Story 3

第9回 Story 3

第10回 Story 3

第11回 Story 4

第12回 Story 4

第13回 Story 4

第14回 Story 4

第15回 定期テスト

外国語科目

(初修)

初修外国語履修案内

二十一世紀を迎え、私たちはこれからどのような世界に生きていくのでしょうか。コンピュータやバイオテクノロジーをはじめとする最先端の科学技術の進歩が、さらに便利で快適な生活をもたらしてくれるのでしょうか。輸送手段と通信手段の驚異的な発達で、人や物の地球規模での移動と交流を今後ますます活発にし、いよいよ世界が一つに結ばれることになるのでしょうか。人類は長い間このようなユートピアを追い求め、それを実現するために計りしれないほどの時間と労力を費やしてきました。そしてたしかに、一面ではこの夢に近づきつつあるようにも見えます。しかし、ここで忘れてはいけないことがあります。それは人間がやはり画一的な機械ではなく、それぞれがおのれ自身の血と肉と精神をそなえた個性を有する生き物であるという絶対に揺るがせない事実です。効率と利便性を競う技術革新の進展によって、二十一世紀の社会では多くの分野で画一化、統一化の動きが加速することが予想されます。しかしその一方で、精神的・文化的な方面では、人間の本質である自由と創造力があらためて見直され、その結果として人々の関心は、むしろ従来以上に多様性と個性へと向かうことも考えられるのではないのでしょうか。

みなさんご承知のように、わが国では「国際化」「グローバル化」という言葉が時代のスローガンとしてもはやされています。また、これにともない、外国語学習への関心が高まり、最近では学校で学習する以外にさらに専門語学学校に通ったり、語学習得の目的で外国に留学する人も増えています。このような現象そのものは歓迎すべきことなのでしょうが、ただ、しばしば指摘されるように、その際にもあまりにも「英語」および「英語圏の国々」ばかりに人々の関心が偏りすぎている点に大きな問題が潜んでいます。おそらくここには、私たち日本人の多くが自分たち自身に対して無意識の内に抱いている「単一民族」「単一言語」という幻想が、「英語」＝「国際語」というあまりにも単純化された図式にそのまま反映されていると言わざるを得ません。しかも不幸なことに、わが国では高校まで学べる外国語はほとんど選択の余地なく英語であり、このように世界の先進諸国の中でも珍しい状況が、私たちの意識の固定化に甚大な影響を与えています。

たしかに、今や英語は人々がコミュニケーションをするための重要な手段であることは否定できません。しかし、外国語の学習の目的は、英会話の能力さえ身につければそれで達成されたことになるのでしょうか。たとえ日本人同士であっても、おたがいに相手の立場を理解していかなければ、本当のコミュニケーションなど成立しないことを、私たちは普段の経験から知っています。これと同じことが「外国人」との交流にも当てはまるでしょう。つまり、真の意味での国際感覚を身につけた人とは、何よりもまず相手の個性を尊重する人でなければならないでしょう。自然にはまったく同じものなど存在しません。この地球上には何十億という人々が生き、数千とも言われる実にさまざまな言語が混在しています。しかも、どの言語にもそれぞれの歴史があって、またそれを使用してきた人々が営々と育ててきた独自の文化がその背景にあります。人々は同じ人類の一員であると同時に

に、それぞれが異なる文化圏に所属している無数の異なる個性でもあるのです。この事実を真剣に受けとめるならば、外国語の学習においても便利さや効率のみを唯一の規準に据えるやり方が、生きた言葉を学ぶという目的に対して、それ自体どれほど著しい矛盾をはらんでいるかは明らかです。これからみなさんは新たに外国語を学習されるわけですが、それは初めての土地を旅行する時と同じように、新鮮な驚きと不思議な感動に満ちたものであるにちがいません。みなさんは、未知の言語にふれるという貴重な経験を通して、外国語を学ぶ本来の喜びをあらためて味わうことができるとともに、私たちが生きる世界が多種多様であるがゆえによりいっそう豊かでもあることを肌で実感できるでしょう。まさにこの実感こそが自己の国際化への確実な第一歩となるはずです。

初修外国語各科目のガイドライン

「ドイツ語・フランス語・中国語 基礎1、基礎2」

読み・書き・話すための基礎をつくる。辞書を使って簡単な文章を読めるようにする。挨拶や自己紹介などの文が書けるようにする。旅行先などでの簡単な会話ができるようにする。基礎文法は、「基礎1」「基礎2」で完成し、ドイツ語は「独検4級」、フランス語は「仏検5～4級」、中国語は「中検準4～4級」に相当する語学力をつける。

「ドイツ語・フランス語・中国語 応用1、応用2」

「基礎1」および「基礎2」で学んだ知識を発展させ、初級の語学力を完成させる。辞書を使ってやや複雑な文章を読めるようにする。手紙などの簡単な作文ができるようにする。場面に対応した簡単な実用会話ができるようにする。「応用1」「応用2」では、総合的な演習を積み重ねることによって、ドイツ語は「独検4～3級」、フランス語は「仏検4～3級」、中国語は「中検4～3級」に相当する語学力をつける。

初修外国語各科目の履修上の注意

1. 各科目はすべてそれぞれの指定クラスで受講しなければなりません。
2. 各クラスの定員は50名です。
3. 第1回目の授業で受講生を確定します。希望の外国語を受講できない場合は、次年度に受講するか、あるいは、他の外国語を受講してください。
4. 初年度の「基礎1」と「基礎2」は原則として同一外国語を継続して履修すること。
5. 「基礎1」、「基礎2」を履修した学生は、2年次で同じ外国語の「応用1」、「応用2」を履修することが望ましい。
6. 第3外国語を履修する者は、2年次で「基礎1」、「基礎2」を受講できる。

ドイツ語

ドイツ語は現在ドイツ連邦共和国以外に、オーストリア、リヒテンシュタイン、そしてスイスの約7割の地域の公用語として約1億人の人々に使用されています。したがって言葉と文化そして風土という観点からドイツを考える場合は、ヨーロッパのほぼ中央に広がる地域社会全体を念頭に描く必要があります。つまり、これらの地域はドイツ語という言葉を紹介して歴史や文化の面で政治行政上の国境を越えた大きな共通性を有するドイツ語圏を形成しています。

さてドイツ語と日本人のかかわりは明治以後の近代化政策とともに始まりました。ドイツを手本として国の制度を整え、医学や化学、思想や音楽をはじめとする当時の先進の学術文化を学び取ろうとした先人達の努力は、たとえば、エネルギー、ゼミナール、アルバイトなどの、現在では私たちの日常生活にすっかり定着したドイツ語の単語からうかがうことができます。ご存知のように、ドイツは日本と同様に第二次世界大戦で敗戦国となり、しかも東西冷戦の中で長い間分断されてきました。統一ドイツの成立は、そのような苦難の歴史の末にようやく達成されたものでした。ヨーロッパの統合が進められ、ますます人々の交流が活発になりつつある現在、今後ドイツ語圏の国々は、地理的にも経済的にもヨーロッパの要として、ますます重要な役割を果たしていくことになるでしょう。

ところで、おそらく日本人がドイツの国民性に対して持っている印象のせいでしょうか、一般にドイツ語は「何となく難しそうだ」と思われているようです。もちろん、ドイツ語は私たち日本人が学ぶのに決してやさしい言語ではありませんが、これはドイツ語にかぎらず、英語をはじめとして、いわゆる外国語全般について言えることです。ただし、ドイツ語の場合、みなさんがこれまでに学んでこられた英語と同じゲルマン語に属する言語ですから、両言語には文法や語彙に共通するところが多く、すでにある英語の知識を大いに活かすことができます。また、発音や造語法など非常に規則的で例外が少ないために、この面ではむしろ英語よりもやさしいと言えるかもしれません。何はともあれ、この機会を積極的に活用して新しい外国語の習得をめざしてがんばろうではありませんか。

<辞書参考書>

辞書には様々なタイプのものがあります。担当の先生の説明を聞いて適当なものを選んでください。以下に初心者向けの主なものを挙げておきます。

- 「アクセス独和辞典」三修社 「新アポロン独和辞典」同学社
- 「クラウン独和辞典」三省堂 「マイスター独和辞典」大修館
- 「プログレシブ独和辞典」小学館

薬 学 部 ク ラ ス 担 当 者 一 覧

(初修外国語)

科 目	時限	クラス	担当者名
ドイツ語基礎1・2	火1		荒木英行
	木1	A	坂野久
	〃	B	オストハイダ
	〃	C	酒井哲男
	土1		松本敏信
ドイツ語応用1	火1		平岡由美子
	土2		松本敏信

科目名： ドイツ語基礎1				
英文名： Basic German 1				
担当者： <small>アラキ ヒデユキ</small> 荒木 英行・ <small>オスト ハイダ テーヤ</small> オストハイダ テーヤ・ <small>サカイ テツオ</small> 酒井 哲男・ <small>サカノ ヒサシ</small> 坂野 久・ <small>マツモト トシノブ</small> 松本 敏信				
単 位： 1単位	開講年次： 2～4年次	開講期： 前期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

テキストに紹介された日常のやさしい会話表現を使って、聞き取りと発音練習を行い、内容の理解と自己表現に必要な語彙と文法について説明してから、これらを練習問題で確認していきます。また、テキストの内容に関連して、ドイツ語圏の事情についても紹介します。

■学習・教育目標および到達目標

「聴く」「話す」「読む」「書く」能力のバランスある習得。

ドイツ語検定4級に相当する基本語彙について習熟し、ドイツ語の基礎的な運用規則を習得して簡単な文を理解し、また自己表現できる。

■教科書

小野寿美子、中川明博著「ドイチュ・ズーパー」朝日出版

■参考文献

独和辞典（「ドイツ語について」の項を参照）

必要に応じて副教材（プリントなど）を使用することもある。

■関連科目

「ドイツ語基礎2」、「ドイツ語応用1, 2」

語学センター開講科目：「ドイツ語初級インテンシブ」、「ドイツ語初級会話」

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験（50%）、小テスト（20%）、口頭発表及び課題（30%）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 アルファベット、発音

第2回 あいさつ

第3回 旅行で自己紹介

人称代名詞と動詞の現在人称変化
seinの現在人称変化

第4回 旅行で自己紹介

定動詞の位置

第5回 ホテルに宿泊

名詞の性・数・格

第6回 ホテルに宿泊

habenの現在人称変化

第7回 Lesetext（ドイツ語の世界へようこそ・マイセン物語）

第8回 切符を買う

不規則動詞の現在人称変化
人称代名詞の3格と4格

第9回 切符を買う

非人称のesの使い方
動詞の命令形

日本語基礎ゼミナール

第10回 買い物

日本語基礎ゼミナール

名詞の複数形

日本語基礎ゼミナール

第11回 買い物

日本語基礎ゼミナール

定冠詞類と不定冠詞類

日本語基礎ゼミナール

第12回 Lesetext (ビール事情・ドイツ語単語クイズ)

日本語基礎ゼミナール

第13回 道をたずねる

日本語基礎ゼミナール

前置詞の格支配

日本語基礎ゼミナール

第14回 道をたずねる

日本語基礎ゼミナール

前置詞と定冠詞の融合形

日本語基礎ゼミナール

第15回 定期試験

日本語基礎ゼミナール

日本語基礎ゼミナール

日本語基礎ゼミナール

日本語基礎ゼミナール

日本語基礎ゼミナール

日本語基礎ゼミナール

日本語基礎ゼミナール

日本語基礎ゼミナール

日本語基礎ゼミナール

日本語基礎ゼミナール

日本語基礎ゼミナール

日本語基礎ゼミナール

日本語基礎ゼミナール

日本語基礎ゼミナール

日本語基礎ゼミナール

日本語基礎ゼミナール

日本語基礎ゼミナール

日本語基礎ゼミナール

日本語基礎ゼミナール

日本語基礎ゼミナール

日本語基礎ゼミナール

日本語基礎ゼミナール

日本語基礎ゼミナール

日本語基礎ゼミナール

科目名：ドイツ語基礎2				
英文名：Basic German 2				
担当者：荒木 英行・オストハイダ テーヤ・酒井 哲男・坂野 久・松本 敏信				
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：後期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

テキストに紹介された日常のやさしい会話表現を使って、聴き取りと発音練習を行い、内容の理解と自己表現に必要な語彙と文法について説明してから、これらを練習問題で確認していきます。また、テキストの内容に関連して、ドイツ語圏の事情についても紹介します。

■学習・教育目標および到達目標

「聴く」「話す」「読む」「書く」能力のバランスある習得。
ドイツ語検定4級に相当する基本語彙について習熟し、ドイツ語の基礎的な運用規則を習得して簡単な文を理解し、また自己表現できる。

■教科書

小野寿美子、中川明博著「ドイツ語・スーパー」朝日出版

■参考文献

独和辞典（「ドイツ語について」の項を参照）
必要に応じて副教材（プリントなど）を使用することもある。

■関連科目

「ドイツ語基礎1」、「ドイツ語応用1, 2」
語学センター開講科目：「ドイツ語初級インテンシブ」、「ドイツ語初級会話」

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験（50%）、小テスト（20%）、口頭発表及び課題（30%）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 両替する

話法の助動詞
未来の助動詞werden

第2回 両替する

従属の接続詞と副文

第3回 Lesetext（ヴィーン風カツレツの作り方・兵役それとも社会奉仕）

第4回 レストランで

形容詞の格変化

第5回 レストランで

zu不定詞

第6回 オペラ観劇

動詞の3基本形

第7回 オペラ観劇

過去人称変化

第8回 Lesetext（神童モーツアルト・グリム童話より）

第9回 サッカー観戦

現在完了形

第10回 サッカー観戦

分離動詞

第11回 メールを出す

形容詞と副詞の比較

第12回 メールを出す

関係代名詞

第13回 Lesetext (哲学者の呼びかけ・二人の生物学者の出会い)

第14回 ことばのきまり補足

第15回 定期テスト

科目名：ドイツ語応用1				
英文名：Intermediate German 1				
担当者： ^{ヒラオカ ユミコ マツモト トシノブ} 平岡 由美子・松本 敏信				
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：前期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

「基礎」で学んだドイツ語の知識を復習し、確認しながら、さらにドイツ語の表現力、応用力を養成することを目指します。授業は会話と読章のテキストに従って、文法事項の説明、語彙や表現の聞き取り、口頭練習、さまざまなタイプの練習問題などを組み合わせて行い、また読解の練習も取り入れます。テキストの内容に関連して、ドイツ語圏の事情についての理解を深めていく。

■学習・教育目標および到達目標

「聴く」「話す」「読む」「書く」能力のバランスある習得
 実践的な会話表現の習得
 語彙数：700語程度
 検定基準：4～3級

■教科書

新野 守広 他著「シュトラッセ」朝日出版社
 必要に応じて、副教材（プリントなど）を使用することもある。

■参考文献

独和辞典（「ドイツ語について」の項を参照）

■関連科目

ドイツ語基礎 1, 2、ドイツ語応用 2
 語学センター開講科目：ドイツ語初級インテンシブ、ドイツ語中級
 ドイツ語会話初級、ドイツ語中級会話

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験（50%）、小テスト（20%）、口頭発表及び課題（30%）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Wie heißt du?

動詞の現在人称変化（1）、ドイツ語の文の成り立ち

第2回 Guten Tag, Herr Fischer!

seinとhabenの現在人称変化

第3回 Einen Kaffee bitte!

名詞の性、冠詞と名詞の格変化

第4回 Das ist meine Familie.

所有冠詞、否定冠詞

第5回 Midori fährt nach Kassel.

動詞の現在人称変化（2）

第6回 Midori fährt nach Kassel.

命令、依頼の表現、時刻の表現

第7回 Schneewittchen gefällt mir besonders gut.

3格の用法、人称代名詞の格変化

第8回 Schneewittchen gefällt mir besonders gut.

Lesetext, 2格の用法

第9回 Dresden liegt an der Elbe.

前置詞と格支配

第10回 Dresden liegt an der Elbe.

前置詞と格支配、Lesetext

第11回 Ich rufe dich an!

話法の助動詞

第12回 Ich rufe dich an!

分離動詞、Lesetext

第13回 Was hast du in den Sommerferien gemacht?

動詞の三基本形

第14回 Was hast du in den Sommerferien gemacht?

現在完了と枠構造

第15回 定期試験

フランス語

フランス語は、ラテン語を直接の先祖とするという意味では、スペイン語やイタリア語やルーマニア語などと兄弟関係にある言葉です。また最近とみに脚光を浴びている国際連合(UN)における公用語の一つであることから分かるように、現在の国際政治で使用されている重要な言葉であるだけでなく、文化・学術上の言語としても重要な位置を占めています。世界の表舞台で活躍する人々や、国際的なスポーツ大会に参加する選手の中でフランス語を話す人が予想外に多いのに驚かされますが、フランス語は、フランス本国だけではなくスイスやベルギーやカナダのケベック州、さらにアフリカの数カ国の公用語として使用されている国際語なのですから、それも当然のことなのです。

このような公的な面だけではなく、文学や美術や映画など芸術の分野、あるいはファッションや料理といった私たちの日常生活に関係の深い面においても、フランス文化の影響が色濃く見られます。とりわけ文化や芸術の分野では、フランスは歴史的にも他に類のない輝かしい栄光を誇ってきましたし、現在でも世界をリードする存在であり続けているのです。またスポーツにおいても、サッカーや柔道やフィギュアスケートなどさまざまな種目で、フランスの選手たちがめざましい活躍をしているのはよく知っている人も多いでしょう。

こうしたフランス語の重要性は、ヨーロッパ連合の国々が、ユーロによる通貨統合などを通してますますお互いに緊密の度を深め、フランスがその中で中心的な役割の一端を担っている時代において、なおいっそうクローズアップされていると言えるでしょう。グローバル化がしきりに言われる現代にあって、英語だけではなく、さらにフランス語の知識を身につけることは、学生諸君にとっても貴重な知的財産の一つとなるはずです。フランス語はまた、明晰さと論理性に富む言語であると言われますが、フランス語の学習が論理的な思考力の育成と、英語圏とはひと味違った異文化理解のきっかけになればと考えています。

〈辞書と参考書〉

辞書 外国語を勉強する上での一番基本となる参考書は、何と言っても辞書に他なりません。最初からいきなり語彙の多い大型辞書を買うよりも、次に挙げるような「学習仏和辞典」で勉強を始めるのがいいでしょう。

「Le Dico 現代フランス語辞典」(白水社) 「プチ・ロワイヤル仏和辞典」(旺文社)

「クラウン仏和辞典」(三省堂) など

参考書 講義で使うテキストは、あくまで授業に沿って使用するようにならされているので、自習用には適しません。自分で分からないところを確認し、知識をさらに深めるには、次のような文法参考書をおすすめします。

「新・リュミエール フランス文法参考書」(駿河台出版社)「大学で始めるフランス語」

(駿河台出版社) など

薬 学 部 ク ラ ス 担 当 者 一 覧

(初修外国語)

科 目	時限	クラス	担当者名
フランス語基礎1・2	火1		沼田五十六
	木1		林秀治
	土1		小林裕史
フランス語応用1	火1		中所聖一
	土2		小林裕史

科目名： フランス語基礎1				
英文名： Basic French 1				
担当者： <small>コバヤシ ヒロシ</small> 小林 裕史・ <small>スマタ イソム</small> 沼田 五十六・ <small>ハヤシ シュウジ</small> 林 秀治				
単 位： 1単位	開講年次： 2～4年次	開講期： 前期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

フランスはヨーロッパ連合の中心的な役割を果たす国の一つで、今もさまざまな分野で世界をリードし続けており、その重要性は増すばかりです。その言葉であるフランス語は、英語と同じアルファベットを使い、共通する単語も多いので、比較的簡単に学ぶことができます。

この講義では、そんなフランス語を聞き、話し、読み、書くためのバランスの取れた能力の育成を目指します。基本的な文法を、日常生活に即した会話文をもとに楽しく学びながら、自分でも使える力を身に付ける仕組みです。講義は毎回新しい内容が出てきますので、なるべく休まずに出席しましょう。授業中の活発な質問など、講義への一人一人の積極的な参加を望みます。

■学習・教育目標および到達目標

フランス語を聞き、話し、読み、書くことに慣れ親しみ、初歩的なコミュニケーションが図れるようにします。フランスの言葉と文化への理解を深め、より広い国際感覚を養います。

■教科書

沼田、松村、米谷、バンドロム著『カジュアルにフランス語』
(朝日出版社)

■参考文献

(辞書)『ディコ仏和辞典』(白水社)、

『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)など

(参考書)『大学で始めるフランス語』(駿河台出版社)、

『新リュミエール・フランス文法参考書』

(駿河台出版社)など

※辞書・参考書については、教員の指示に従って下さい。

■関連科目

フランス語基礎2、フランス語応用1,2

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 講義方針、アルファベ

フランス語についてのあらましを説明し、同時に教科書や参考書なども指示する。アルファベ (アルファベット) の発音の仕方を学び、単語のつづりなどを言えるようにする。

第2回 Leçon 1-1 あいさつの表現、発音とつづり字 (1)

日常的なあいさつの表現を学ぶ。また、フランス語のつづりと発音の対応関係を学び、単語を正しく発音できるようにする。

第3回 Leçon 1-2 お礼・おわびの表現、数字の言い方 (1-20)

Leçon 2-1 カフェでの会話 名詞の性と数 発音とつづり字 (2)

フランス語のお礼やおわびの言い方を学び、1から20までの数字が言えるようにする。男性名詞と女性名詞の区別について学ぶ。

第4回 第1回小テスト Leçon 2-2 冠詞 発音とつづり字 (3)

フランス語の定冠詞、不定冠詞、部分冠詞の使い方について学ぶ。カフェでの会話をもとに冠詞の練習をする。

第5回 Leçon 3-1 教室での会話 主語人称代名詞、動詞êtreの活用と用法

英語のbe動詞に相当する動詞êtreの活用と用法を学び、身分・職業を表す語彙を使って会話で練習する。

第6回 Leçon 3-2 動詞avoirの活用と用法
Leçon 4-1 駅での会話 提示の構文 発音とつづり字 (5)

簡単な自己紹介の仕方を学ぶ。英語のhaveに相当する動詞avoirの活用と用法を学び、提示の構文についても勉強する。

第7回 Leçon 4-2 提示の構文 (つづき) 日付の言い方

「これは何ですか」などの言い方を練習し、同時に身の回りのものを表す語彙を身に付ける。日付の言い表し方を学ぶ。

第8回 第2回小テスト Leçon 5-1 カフェテリアで 形容詞の用法

形容詞の基本的な用法と語尾変化などについて学ぶ。

第9回 Leçon 5-2 形容詞 (つづき)
Leçon 6-1 大学の食堂で 第一群規則動詞

国籍など、さまざまな形容詞を使いこなせるように練習する。
-erの語尾を持つ規則動詞の活用を学ぶ。

第10回 Leçon 6-2 第一群規則動詞 (つづき) 数字の言い方 (20-60)

-erの語尾を持つ第一群規則動詞を使いこなせるようにさらに練習する。20から60までの数字の言い方を学ぶ。

第11回 Leçon 7-1 映画について 否定文と疑問文

フランス語の否定文と疑問文の作り方を学ぶ。

第12回 第3回小テスト Leçon 7-2 否定文と疑問文 (つづき)
Leçon 8-1 夕食によばれて 指示形容詞・所有形容詞

否定文と疑問文をさらに練習する。また「この、その」などの指示形容詞、「私の、あなたの」などの所有形容詞を学ぶ。

第13回 Leçon 8-2 命令文

フランス語の命令文の作り方を学ぶ。また指示形容詞・所有形容詞の使い方にさらに慣れるようにする。

第14回 まとめと復習

これまでの内容を全体的に復習し、知識の定着をはかる。とくにわかりにくいポイントを押さえて詳しく解説する。

第15回 定期試験

科目名： フランス語基礎2				
英文名： Basic French 2				
担当者： <small>コバヤシ ヒロシ スマタ イソム ハヤシ シュウジ</small> 小林 裕史・沼田 五十六・林 秀治				
単 位： 1単位	開講年次： 2～4年次	開講期： 後期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

「フランス語基礎1」に引き続き、日常生活に即した会話を楽しく学びながら、フランス語をさらに自由に使えるように知識を深めていきます。

「基礎2」では、さまざまな動詞を使いこなし、広い範囲の語彙を身に付けながら、会話でより自由にいろいろなことを表現できるようにします。また文法は過去形も学び、簡単な文章なども読みこなせるレベルまで進んでいきます。前期と同様、毎回休まずに出席し、授業には積極的に参加するようにしましょう。

■学習・教育目標および到達目標

フランス語を聞き、話し、読み、書くことに慣れ親しみ、初歩的なコミュニケーションを図れるようにします。フランスの言葉と文化への理解を深め、より広い国際感覚を養います。

■教科書

沼田、松村、米谷、バンドロム著『カジュアルにフランス語』
(朝日出版社)

■参考文献

(辞書)『ディコ仏和辞典』(白水社)、
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)など
(参考書)『大学で始めるフランス語』(駿河台出版社)、
『新リュミエール・フランス文法参考書』
(駿河台出版社)など

※辞書・参考書については、教員の指示に従って下さい。

■関連科目

フランス語基礎1、フランス語応用1,2

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 講義方針「基礎1」の復習

これからの講義の方針や進め方について説明する。
「基礎1」の内容でとくに重要なものについて、一通り復習する。

第2回 Leçon 9-1 宝くじに当たった! 動詞allerとvenir

動詞aller (行く) とvenir (来る) の活用と用法を学ぶ。

第3回 Leçon 9-2 allerとvenir、前置詞 Leçon 10-1 小さなビストロで 第二群規則動詞

フランス語の様々な前置詞を知る。
-irの語尾を持つ第二群規則動詞の活用と用法を練習する。

第4回 第1回小テスト Leçon 10-2 第二群規則動詞(つづき)

第二群規則動詞の用法をさらに練習する。
60以上の数字の言い方、ユーロによる金額の表し方を知る。

第5回 Leçon 11-1 講義の合間に 疑問詞を使った疑問文

「何?」「誰?」など、さまざまな疑問詞を使った疑問文とその答え方を学ぶ。

第6回 Leçon 11-2 疑問詞を使った疑問文(つづき)

Leçon 12-1 庭での会話 動詞faireとprendre

疑問詞の使い方をさらに練習する。
動詞faire（する、作る）とprendre（取る）の活用と用法を知る。

第7回 Leçon 12-2 動詞faireとprendre（つづき）

重要な動詞faireとprendreをさらに使いこなせるように練習する。「順序」を表す言い方を学び、会話で練習する。

第8回 第2回小テスト Leçon 13-1 郵便局での会話 直接・間接目的語

フランス語の直接・間接目的語の代名詞の使い方を学ぶ。
道順の尋ね方などを会話で練習する。

第9回 Leçon 13-2 目的語（つづき）、強勢形
Leçon 14-1 電話での会話 vouloir, pouvoir, devoir

目的語の用法をさらに練習し、強調のためなどに使われる強勢形を学ぶ。「ほしい」「できる」などの言い方を学ぶ。

第10回 Leçon 14-2 vouloir, pouvoir, devoir（つづき）

会話にぜひ必要な三つの動詞の使い方をさらに練習する。
電話での会話の仕方を学ぶ。

第11回 Leçon 15-1 旅行代理店での会話 比較

フランス語の比較構文の作り方を学ぶ。

第12回 第3回小テスト Leçon 15-2 比較
Leçon 16-1 キャンパスでの会話 複合過去

レストランでの会話などを学ぶ。過去形の基本である複合過去の用法を学ぶ。

第13回 Leçon 16-2 複合過去（つづき）

複合過去の用法について、さらに使いこなせるように練習する。

第14回 まとめと復習

これまでの内容を全体的に復習し、知識の定着をはかる。とくにわかりにくいポイントを押さえて詳しく解説する。

第15回 定期試験

科目名： フランス語応用1				
英文名： Intermediate French 1				
担当者： <small>コバヤシ ヒロシ チュウジヨ セイイチ</small> 小林 裕史・中 所 聖一				
単 位： 1単位	開講年次： 2～4年次	開講期： 前期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

すでに「フランス語基礎1,2」を履修した学生を対象とします。簡単な文章を読んだり、日常的な会話を楽しく学びながら、フランス語を使いこなすのに必要な能力の完成を目指します。また「基礎」で学んだ知識を基本から再確認し、まだ習っていない内容も少しずつ習得できるようにします。授業は知識を積み重ねていくことが必要ですので、休まず出席しましょう。また予習と復習を欠かさないようにして、知識をしっかりと身に付けるようにしてください。

■学習・教育目標および到達目標

フランス語を使って、いろいろな場面でより多様な表現ができるようにする。身の回りの直接的なことの他に、事実を理解し説明したりできる能力を身に付ける。

■教科書

阿南婦美代、O.モレ著『新アン・マルシュ!』（駿河台出版社）

■参考文献

(辞書)『ディコ仏和辞典』（白水社）、
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）など
(参考書)『大学で始めるフランス語』（駿河台出版社）、
『新リュミエール・フランス文法参考書』（駿河台出版社）など

※辞書・参考書については、教員の指示に従って下さい。

■関連科目

フランス語基礎1, 2、フランス語応用2

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 講義方針、「フランス語基礎」の復習

講義の方針を説明し、教科書、参考書などを指示する。「基礎」で習った内容の重要なものを確認する。

第2回 Leçon 1-1 こんにちは 挨拶の表現 êtreと-er形動詞の活用

さまざまな挨拶の表現を復習する。êtreと-er形動詞の活用と用法を確認する。

第3回 Leçon 1-2 名詞と形容詞の性と数

男性名詞と女性名詞の区別、形容詞の男性形と女性形について確認し、使いこなせるように練習する。

第4回 第1回小テスト Leçon 2-1 私は日本にいます 動詞avoir, aller, venirの活用

動詞avoir, aller, venirの活用を復習し、さまざまな文章が言えるように練習する。

第5回 Leçon 2-2 疑問詞を使った疑問文 時間の表現

時間の表現を使った文章を練習する。さまざまな疑問詞を使って疑問文を作り、それに答えられるように練習する。

第6回 Leçon 3-1 今日はいい天気です 休日です 動詞sortir, faireなど

sortir (外出する) やfaire (する、作る) など、いくつかの不規則動詞を練習する。

第7回 Leçon 3-2 所有形容詞、天候・季節の語彙

「私の、あなたの」などの言い方を復習する。天候や季節に関する語彙を使いこなせるように練習する。

**第8回 第2回小テスト Leçon 4-1 ここで夕食を食べようよ
電話の表現 動詞mettre, devoir, voir**

電話での会話を練習する。動詞mettre（置く）、voir（見る）などの活用を練習する。

第9回 Leçon 4-2 近接過去と近接未来、命令法、住居の語彙

近い過去と近い未来を表す表現、命令文の作り方を復習する。
住居に関する語彙を使って会話の練習をする。

第10回 Leçon 5-1 私の方が年上ね 動詞vouloirとpouvoirの活用 部分冠詞

動詞vouloir（ほしい、したい）とpouvoir（できる）の活用を復習する。部分冠詞を使いこなせるように練習する。

第11回 Leçon 5-2 食事に関する表現 比較級・最上級

食事に関するさまざまな表現を身に付ける。副詞・形容詞の比較級と最上級の用法を復習する。

**第12回 第3回小テスト Leçon 6-1 プラスリーでの会話
補語人称代名詞**

食事に関する語彙を学ぶ。直接目的補語と間接目的補語の用法を復習し、使いこなせるように練習する。

第13回 Leçon 6-2 代名動詞 メニューの語彙

seのついた動詞である代名動詞の活用を復習する。
レストランのメニューによく使われる語彙を身に付ける。

第14回 まとめと復習

これまでの内容を全体的に復習し、知識の定着をはかる。とくにわかりにくいポイントを押さえて詳しく解説する。

第15回 定期試験

中 国 語

世界最大の人口、驚異的な経済成長、4千年の歴史を誇る中国。今後、同じクラスやサークル、またバイト先で中国の人と接する機会が多いにあるでしょう。また学生時代の思い出旅行で、就職したら出張で中国に行く機会もあると思います。国際化が急速に進展する今日、私たちにとって中国語を学び、中国への理解を深めていくことは、極めて重要なことだと言えるでしょう。

中国語は中国では「漢語」と言います。「漢語」とは漢民族の言語のことで、使用人口は10億人以上とされ、世界最大の使用者人口を誇ります。漢民族の言語ですから、その中には北京語も上海語も広東語も含まれます。中国は実は方言の多い国で、それらはまるで互いに外国語のようで、場合によっては通訳なしでは通じません。しかし、これでは困ります。1つの国には全国共通の標準語が必要です。そこで、全国に普く通じる話という意味の「普通話」（標準語）が定められ、国民のコミュニケーションの円滑化がはかられました。私たちが学ぶ中国語とは、実はこの漢民族の言語の標準語「普通話」を意味するのです。

中国では「普通話」の制定と同時に、漢字を簡略化して識字率の向上もつとめました。こういう中国独自の簡略化された文字を「簡体字」といいます。現在台湾を除いて、シンガポールやマレーシアなどでもこの「簡体字」が使用されていますが、漢字であるとはいえ、外国語であることに変わりはありません。私たちが使っているものとはずいぶんと形が違うものがありますし、また同じ漢字でも、表す意味が異なるものもたくさんあります。例えば「走」という字、日本では「走る」という意味ですが、中国では「歩く」という意味です。漢字文化圏に属するとはいえ、日本と中国の漢字とでは異なる点が多く、両国間の文化の相違を十分に垣間見ることができます。

中国語を学ぶことから、中国への興味と理解を深め、より豊かな知識と感覚を備えた国際人になってほしいと願っています。

<辞書・参考書>

辞書

- | | |
|----------------|---------------------|
| 基礎中国語辞典（NHK出版） | はじめての中国語学習辞典（朝日出版社） |
| クラウン中日辞典（三省堂） | 中国語辞典（白水社） |
| 中日辞典 第二版（講談社） | 日中辞典 第二版（岩波書店） |
| 日中辞典 第2版（小学館） | |

参考書

- why?にこたえるはじめての中国語の文法書（同学社）
- 中国語文法・完成マニュアル（白帝社）
- よくわかる中国語文法（白帝社）

薬学部 クラス 担当者 一覧

(初修外国語)

科目	時限	クラス	担当者名
中国語基礎1・2	火1		樋口昌敏
	木1		馮誼光
	土1		鈴木康予
中国語応用1	火1		井上薫
	土2		鈴木康予

<書き込み・電装>

書籍

(吉澤由利隆) 中国語訳読本(1) (吉澤由利隆) 中国語訳読本(2)

(鈴木白) 中国語訳読本(3) (松本三) 中国語訳読本(4)

(吉澤由利隆) 中国語訳読本(5) (松本三) 中国語訳読本(6)

(松本三) 中国語訳読本(7)

書名

(吉澤由利隆) 中国語訳読本(8)

(松本三) 中国語訳読本(9)

(松本三) 中国語訳読本(10)

科目名：中国語基礎1				
英文名：Basic Chinese 1				
担当者：鈴木 康予・樋口 昌敏・馮 誼光				
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：前期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

はじめて中国語を学ぶ人を対象に、中国語を「聞く」「話す」「書く」ための基礎力をつけることを目標とします。基礎1ではとにかく発音をよく聞いてまねること。中国語は一つ一つの音節に、高低や上げ下げの調子＝声調 (tone) がついており、同じ発音でも声調が異なれば表す意味も違ってきます。また中国語の発音は、中国独自のローマ字つづり「ピンイン」で表記され、この「ピンイン」は私たちが英語で慣れ親しんだ読み方とはところどころ異なります。まず、は声調を聞き分け、「ピンイン」に習熟すること、これが基礎1では特に重要になります。同時に簡単な自己紹介や日常会話ができるよう、文法の基礎もしっかりと学んでいきます。

■教科書

ちょっとまじめに中国語
日下恒夫 史彤嵐著 同学社 2,400円

■参考文献

(辞書)
『中日辞典』
(参考書)
『why? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂他著
(同学社)

■関連科目

中国語基礎2
中国語応用1.2

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1回 中国語の発音 声調 韻母 (1)
- 第2回 声母 (1) 声母 (2)
- 第3回 韻母 (2) 中間確認 小テスト
- 第4回 声母 (3) 韻母 (3) 軽声 変調 er化
- 第5回 第1課 語順 名詞述語文と「是」
- 第6回 諸否疑問文 「也」と「都」
- 第7回 第2課 所在を表す「在」 特定疑問文
- 第8回 第3課 「有」の用法 方位詞 量詞
- 第9回 復習
- 第10回 第4課 前置詞「在」 年月日・曜日・時刻の言い方 状況語
- 第11回 第5課 形容詞述語文 反復疑問文
- 第12回 復習
- 第13回 第6課 選択疑問文 連動文 意志・願望
- 第14回 総復習
- 第15回 定期試験

科目名：中国語基礎2				
英文名：Basic Chinese 2				
担当者：鈴木 康予・樋口 昌敏・馮 誼光				
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：後期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

基礎2では、基礎1で習熟した「ピンイン」を見て、一字一句正確にかつ丁寧に発音できることを目指します。また平易な文章を自力で読めるように、中国語の構造をしっかりと理解し、文法の基礎力を築いてもらいます。中国語の発音をマスターするのは決して容易ではありません。授業以外の時間は、テキスト付録のCDを聞いたり、テレビやラジオなども利用して、進んで練習するよう心がけてください。基礎1に比べ、文法事項も増えていきます。予習・復習をしっかりととして授業に望みましょう

■教科書

ちょっとまじめに中国語
 日下恒夫 史彤嵐著 同学社 2,400円

■参考文献

(辞書)
 『中日辞典』
 (参考書)
 『why?にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂他著
 (同学社)

■関連科目

中国語基礎1
 中国語応用1.2

■試験方法

授業中に小テストを実施します。また最終講には定期試験を行います。試験は記述式とし、場合により聞き取りや発音を試験することもあります

■成績評価基準

原則として、定期試験50パーセント、平常点(小テスト、レポート、受講状況など)50パーセントとして評価します。また、出席率が65パーセントに満たない学生は評価の対象になりません。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 総合1の復習

第2回 第7課 「多」+形容詞 動詞・行為の実現を表す「了」 時量補語「給」

第3回 第8課 変化・完了を表す「了」 比較表現 年齢の聞き方

第4回 第9課 過去の経験を表す「過」「就」 動量補語

第5回 復習

第6回 第10課 動作の進行を表す「在」 結果補語 電話に関する表現

第7回 第11課 動詞の重ね型 使役表現・兼語 お金の数え方

第8回 第12課 「会」「能」「可以」 様態補語 「快...了」「就要..了」

第9回 復習

第10回 第13課 「是...的」の構文 方向補語

第11回 第14課 動作・状態の持続を表す「着」 結果補語「到」 可能補語

第12回 復習

第13回 第15課 処置表現 受身表現 禁止表現 「再」と「又」

第14回 第16課 存現文 複文の例

第15回 定期試験

科目名：中国語応用1				
英文名：Intermediate Chinese 1				
担当者： <small>イノウエ カオル スズキ ヤスヨ</small> 井上 薫・鈴木 康予				
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：前期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

中国語基礎（1・2）を履修し、中国語の発音と文法の基礎を習得した学生を対象とする科目です。授業では、会話形式の教材による対話・反復練習、文法事項の系統的説明、発展練習（発音・ドリル・作文）などを通して、「聞く」「話す」「読む」「書く」ための総合的な力を育成することを目指します。

■教科書

「留学気分で中国語」
侍場裕子他著 白帝社 2,700円

■参考文献

(辞書)
『中日辞典』
(参考書)
『why?にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂他著
(同学社)

■関連科目

中国語総合2、中国語総合3,4
中国語コミュニケーション1,2,3,4
中国語カルチャーセミナー A,B

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験（50%）、小テスト（20%）、口頭発表及び課題（30%）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1回 基礎復習1 発音概説（および基礎復習3）
- 第2回 基礎復習2 基本文型概説（および基礎復習3）
- 第3回 第1課 動詞述語文の語順 その他
- 第4回 第2課 「的」を用いた連体修飾語 その他
- 第5回 復習
- 第6回 第3課 文末助詞「了」 その他
- 第7回 第4課 助動詞・接続詞 その他
- 第8回 復習
- 第9回 第5課 「是...的」構文 その他
- 第10回 第6課 使役の「讓」 その他
- 第11回 復習
- 第12回 第7課 連動文 その他
- 第13回 第8課 結果補語 その他
- 第14回 復習
- 第15回 定期試験

近畿大學